

考えるということ

街へ、時代へ、飛び出した
東北大学文学部
ブックレット

ISSN 1882-434X
東北大学文学部・文学研究科
July 2013 Vol. 8

この本の立場▶実利偏重・通俗功利主義がはびこる時代、東北大学文学部・文学研究科は、あえて「人文知の価値」を示したいと思います。この本は、軽微浮薄な文化への対立軸としての重厚な伝統的学問文化を守り、発展させる媒体です。現実の問題から目をそらすものではありません。「企業の社会的責任」を意識する先進的な企業と対話・連携し、あるいは書店や図書館、地域社会との対話を通して、人文社会学的立場から、責任を持った発言をしていきます。さらに、大学で学びつつある、あるいはこれから大学で学ぶとする若い世代に、「真の実学」としての人文社会学の心髄を伝えたいと思います。ネットを中心に、匿名性を隠れみのとした無責任な発言が、なんとあふれかえっていることでしょうか。この本では、研究者―高校生・大学生―卒業生―企業―地域社会を結んで、＜文学部流＞を徹底したらこうなる、という情報の発信をめざしていきます。

3つのシリーズ特集

巻頭インタビューシリーズ⑥

宗教学 鈴木岩弓教授

「実践宗教学寄附講座」と

「臨床宗教師」育成の、

これから

②

東北大学文学部の歴代研究者メモリアル⑧

東北大学の西洋史学の礎を築いた
大類伸博士

文学部の研究紹介⑧ 国語学 小林隆教授 ⑬

東日本大震災被災地域への視点
方言で救う、方言を救う

「知る」と「継ぐ」

何百年も何千年も前の、外国語で書かれた史料などを、人は、どのようにして知り、理解してきたのだろうか。たとえば東北大学図書館には、世界に知られた仏教に関係するチベット資料コレクションがある。その一つが、多田等観（1890-1967/1935-44年、東北帝国大学印度学講座講師）がチベットから持ち帰った、チベット語で書かれた仏典『西蔵大蔵経』（デルゲ版）である。等観は秋田市の本願寺派西船寺に生まれ、西本願寺で修業をしている時にダライ・ラマ13世側近一行の世話係となつてチベット語を学んだ上に、チベット名まで与えられる知遇を得た。1933年に入蔵して仏教研究を深め、帰国時に『西蔵大蔵経』など多数の資料を下賜されたのである。このような出会いは、天平・奈良時代の遣唐使、たとえば慈覚大師円仁が入唐してサンスクリット語などを学び、「入唐求法巡礼記」にまとめた歴史までさかのぼるものである。東北大学文学研究科・文学部ではチベット語やサンスクリット語だけでなく、ラテン語、ギリシア語、ヘブライ語なども学び、世界の古典資料を読みこなし、さらに広く深く知り、次へと継いでいくことができるのだ。

広く、深く、高く!!多彩なシリーズ

図書館・書店との対話⑧

宮城県仙台第二高等学校図書館

進学高校の生徒の、「最近の若い者の読書傾向を聞いてみた

⑨

文学部へ行く⑧ TOPICS&INFORMATION

文学部ゆかりの宝もの⑧

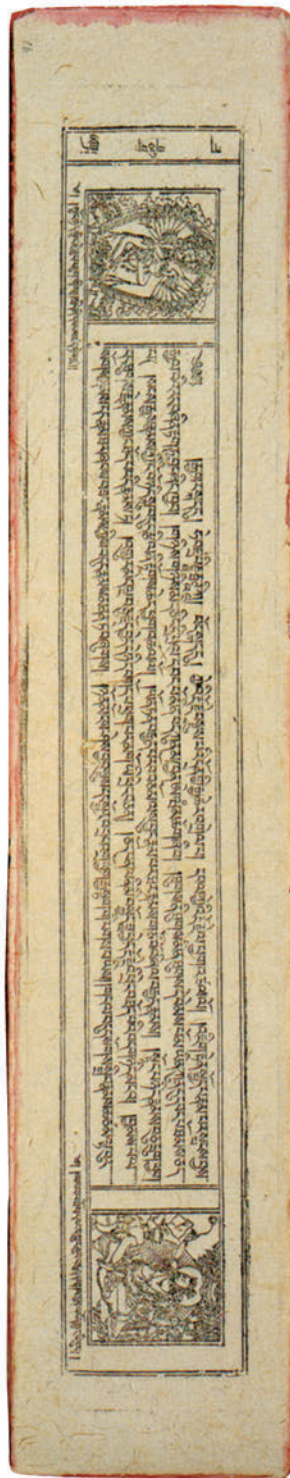
東北大学考古学資料

縄文時代研究の基礎資料となる

⑬

⑭

(東北大学附属図書館所蔵)



1 「実践宗教学寄附講座」は何をめざす講座か、「臨床宗教師」とは何か

2012年3～5月、文学研究科に開かれた「実践宗教学寄附講座」と「臨床宗教師」育成の取り組みが、新聞記事になりました。3月25日付け毎日新聞(宮城版)は「宗教の枠を超え悲嘆と向き合う 来月から研究の講座を設置 東北大臨床宗教師の創設も」、5月3日付け中外日報は「臨床宗教師」構想も 東北大学 諸宗派からの寄付で運営 実践宗教学講座始まるVの見出しで、寄附講座への期待を報道しています。この寄附講座は、鈴木教授を主任として、谷山洋三・高橋原准教授が講座運営委員会と協議しながら運営されているようですが、現在の取り組み状況からお話ください。

鈴木 「実践宗教学寄附講座」は、宗派宗教を超えて多くの宗教団体から寄附をいただき、2012年4月に設置されました。文学部としては初めての寄附講座であり、東北大学の文系4学部の中では経済学部の「地域経済金融論(七十七銀行)寄附講座」(2008年度開設)に次ぐものであり、文学部・文学研究科にとって画期的な講座です。

新しい活動分野を生み出すためには、実践と理論、そして社会的な受容が不可欠です。ビハール活動などのチャプレン的な活動を経験してきたことから実践的な指導ができる谷山洋三准教授と、理論を得意としていることから実践活動に理論的基礎を与えることができる高橋原准教授が実際の指導に当たり、私が宗教的バランスに目を配るという体制にしています(「チャプレン的な活動」については、後述します)。国立大学の宗教学科ならば、一宗一派のために何かをするというのではないだろうし、カルト宗教に走ってしまうこともないだろうという信頼関係で東北大学が選ばれているわけですから、バランスが非常に重要になります。人を救えない宗教学者が、人を救う宗教者をまとめていく組織にしよう、と私たちは決断しました。寄附者氏名、講座運営委員会メンバーを見ていただければ、支援の輪が多彩な宗派宗教に広がっていることが分かるでしょう。

講座の開設期限はさしあたり3年間とし(2012年度～14年度)、研修プログラムによって「臨床宗教師」の育成を目指して、すでに

巻頭インタビューシリーズ ⑥

「実践宗教学寄附講座」と「臨床宗教師」育成の、これから

鈴木 岩弓 教授



「臨床宗教師」構想も

2回の研修を終え、現在は4～7月のスケジュールで3回目の研修を実施しているところです。

研修は、①「傾聴」「スピリチュアルケア」の向上、②「宗教間対話」「宗教協力」の能力向上、③宗教者以外の諸機関との連携方法を学ぶ、④適切な「宗教的ケア」の方法を学ぶ、ことを大きな目標としています。具体的には、たとえば「お化けを見た」「海の中に目がいっぱい漂っている」といった打ち明け話をされた時、どのように対処するかを参加者同士のロールプレイングゲームで探ったり、直接被災者と会って傾聴を実践したりしています。詳しい内容は、『実践宗教学寄附講座ニュースレター』(リーフレットおよびホームページ。現在、3号まで発行)をご覧ください。あればありがたいです。

研修受講者は1・2回目それぞれ12名、3回目15名となっていますが、修了者の中には東北の被災地で、あるいは自身の地元で、臨床宗教師として人々の心に寄り添う実践を始めている人もいます。順調に推移していると言えるのではないのでしょうか。

東北大学

諸宗教からの寄付で運営

実践宗教学講座始まる

心のケアの理論研究 鈴木岩弓教授ら担当

東北大学は、今春から文学部にて「実践宗教学寄附講座」を開講した。宗教の垣根を超えて死や悲嘆、苦しみを救済する心のケアの具体的な方法を習得し、将来的には宗教者らが講義できる講座を開き、「臨床宗教師」(仮称)の認定制度設立を目指す。

今回の開講で多くの臨 世界のどこでも起る 被害を救済する 力を 床に横たわった被災者 ことである宗教者の役 割が大々的にクローズアップされた。被災者の心のケア 各地で宗教者がさまざまな活動を見せる中、仙台市では宗教者が被災者を 支援する活動が、死を向き合 北大学大学院文学研究科

「臨床宗教師」構想も 東北大学は、今春から文学部にて「実践宗教学寄附講座」を開講した。宗教の垣根を超えて死や悲嘆、苦しみを救済する心のケアの具体的な方法を習得し、将来的には宗教者らが講義できる講座を開き、「臨床宗教師」(仮称)の認定制度設立を目指す。

心のケアの理論研究 鈴木岩弓教授ら担当

「臨床宗教師」構想も 東北大学は、今春から文学部にて「実践宗教学寄附講座」を開講した。宗教の垣根を超えて死や悲嘆、苦しみを救済する心のケアの具体的な方法を習得し、将来的には宗教者らが講義できる講座を開き、「臨床宗教師」(仮称)の認定制度設立を目指す。

「臨床宗教師」構想も 東北大学は、今春から文学部にて「実践宗教学寄附講座」を開講した。宗教の垣根を超えて死や悲嘆、苦しみを救済する心のケアの具体的な方法を習得し、将来的には宗教者らが講義できる講座を開き、「臨床宗教師」(仮称)の認定制度設立を目指す。

■第1回臨床宗教師研修プログラム(2012年10月・11月/於:石巻市・名取市)

(前半)石巻市				(後半)名取市			
1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	7日目	8日目
7:00	朝食	朝食	朝食	朝食	朝食	朝食	朝食
8:00	日常儀礼 G	日常儀礼 G	日常儀礼 G	日常儀礼 G	日常儀礼 G	日常儀礼 G	日常儀礼 G
9:00	理念 L ※2	行脚 F	ロールプレイ G	ロールプレイ G	行脚 F	行脚 F	行脚 F
10:00	倫理 L ※2	公共性 L ※2	石巻旧市内	公共性 L ※2	宗教間対話 L ※2	茶話会 (名取)	名取
11:00	昼食	昼食	昼食	昼食	昼食	昼食	昼食
12:00	集合	オリエンテーション	自己紹介・参加動機	自己紹介・参加動機	集合	集合	集合
13:00	行脚 F	カフェデモンク	カフェデモンク	カフェデモンク	行脚 F	行脚 F	行脚 F
14:00	北上〜大川小 越後	北上〜大川小 越後	北上〜大川小 越後	北上〜大川小 越後	北上〜大川小 越後	北上〜大川小 越後	北上〜大川小 越後
15:00	実習振り返り G	実習振り返り G	実習振り返り G	実習振り返り G	実習振り返り G	実習振り返り G	実習振り返り G
16:00	宿泊所へ	宿泊所へ	宿泊所へ	宿泊所へ	宿泊所へ	宿泊所へ	宿泊所へ
17:00	夕食	夕食	夕食	夕食	夕食	夕食	夕食
18:00	休息	休息	休息	休息	休息	休息	休息
19:00	カフェデモンク L ※2	戸別訪問 L	ロールプレイ G	戸別訪問 L	戸別訪問 L	戸別訪問 L	戸別訪問 L
20:00	日常儀礼 G	日常儀礼 G	日常儀礼 G	日常儀礼 G	日常儀礼 G	日常儀礼 G	日常儀礼 G
21:00							

※1 1ヶ月程度のインターバル
※2 DVDや資料などによる事前学習を求める
全日程参加者に修了証を授与



■第2回臨床宗教師研修プログラム(2013年2月・3月/於:石巻市)

(前半)石巻・続禅寺			(後半)石巻・高福寺		
1日目(2/19火)	2日目(2/20水)	3日目(2/21木)	4日目(3/4月)	5日目(3/5火)	6日目(3/6水)
7:00	朝食	朝食	朝食	朝食	朝食
8:00	日常儀礼 G	日常儀礼 G	日常儀礼 G	日常儀礼 G	日常儀礼 G
9:00	倫理 L ※2	地域と文化1 L ※2	倫理 L ※2	地域と文化1 L ※2	地域と文化1 L ※2
10:00	集合	公共性 L ※2	宗教的ケア L ※2	公共性 L ※2	宗教的ケア L ※2
11:00	オリエンテーション	余話記録の作成法	余話記録の作成法	余話記録の作成法	余話記録の作成法
12:00	自己紹介・参加動機	昼食	自己紹介・参加動機	自己紹介・参加動機	自己紹介・参加動機
13:00	昼食	休息	昼食	休息	休息
14:00	行脚 F (法山寺) → 敬愛病院跡地 → 渡波 → 魚市場	カフェデモンク 開成ささえあい 拠点センター 石巻市開成1-48	行脚 F (法山寺) → 敬愛病院跡地 → 渡波 → 魚市場	カフェデモンク 開成ささえあい 拠点センター 石巻市開成1-48	カフェデモンク 開成ささえあい 拠点センター 石巻市開成1-48
15:00	ふたごの湯(河北)	ふたごの湯(河北)	ふたごの湯(河北)	ふたごの湯(河北)	ふたごの湯(河北)
16:00	夕食	夕食	夕食	夕食	夕食
17:00	宿泊所へ	宿泊所へ	宿泊所へ	宿泊所へ	宿泊所へ
18:00	休息	休息	休息	休息	休息
19:00	カフェデモンク L ※2	休息	カフェデモンク L ※2	休息	休息
20:00	理念 L ※2	実習振り返り G	理念 L ※2	実習振り返り G	実習振り返り G
21:00	休息	休息	休息	休息	休息



■第3回臨床宗教師研修プログラム(2013年4月〜7月/於:仙台市・石巻市・大阪市・長岡市)

・研修費は無料。交通費、宿泊費は自己負担。

期	班	伊達	青葉	日高見	浪花	越州
	定員	2〜3名	2〜3名	2〜3名	3〜4名	3〜6名
	実習先	同部医務、放射能計測所	同部医務、放射能計測所	同部医務、電話相談、カフェデモンク	シェアハウス中井(ビハール21)	長岡西病院ビハール棟
4月15日〜16日	全体会1(開講)	開講、オリエンテーション、講義(理念、倫理、余話記録、カフェ、放射能)、グループワーク(日常儀礼、休息)				
4〜5月	実習期間1	カフェ(4h)、放射能(4h)	電話(4h)、放射能(4h)	電話(4h)、カフェ(4h)	ハウス(8h)	長岡(8h)
5月12日〜14日	全体会2	講義(現代宗教論、宗教的ケア、グループワーク、ホスピスケア、在宅ケア)、グループワーク(日常儀礼、実習振り返り、ロールプレイ)				
5〜6月	実習期間2	同部(8h)	電話、放射能	電話、カフェ	ハウス	長岡
6月17日〜18日	全体会3	講義(公共性、人権擁護、宗教間対話、被災者支援)、グループワーク(日常儀礼、実習振り返り、余話記録)				
6〜7月	実習期間3	カフェ、放射能	同部	同部	ハウス	長岡
7月22日〜23日	全体会4(修了)	グループワーク(日常儀礼、実習振り返り、余話記録)、修了式				

講義22h、GW28h、実習24h、他3h、合計75h



Part 2 「心の相談室」からの出発

——前述した中外日報の記事は、今回の震災で多くの臨床心理士が被災地に派遣され、被災者の心のケアに当たった。しかし死者、行方不明者が2万人を超える状況では活動に限界があり、死と向き合い、供養や慰霊など死後の世界のことまでも語ることでできる宗教者の役割が大きくクローズアップされた。(改行)各地で宗教者が教派を超えて集まり、「心の相談室」を緊急設置。力を合わせて震災で次々と迫り来る問題にできるかぎりの対応をしてきた。「心の相談室」の事務局を預かったのが「実践宗教学寄附講座」を構想した東北大学大学院文学研究科宗教学研究室教授の鈴木岩弓氏だった。Vと記しています。講座構想の経緯や、「心の相談室」についてお教えてください。

■寄附者一覧(2013年5月現在)

日本基督教団
南西ドイツ宣教会(EMS)
日本ナザレン教団
宗教法人みんなの寺
融通念佛宗音羽山観音寺
浄土真宗本願寺派真覚寺
真宗大谷派常念寺
天台真盛宗新光寺
天台真盛宗西念寺
融通念佛宗西方寺
曹洞宗島田地蔵寺
真言宗智山派大聖寺
日蓮宗実相寺
日蓮宗妙興寺
秩父神社
神習教
念法真教
匿名
公益財団法人世界宗教者平和
会議(WCRP)日本委員会
日本キリスト教協議会エキュ
メニカル震災対策室
財団法人東北ディアコニア

■講座運営委員会(敬称略)

<委員長>
川上直哉 (財)東北ディアコニア理事長
<学内委員>
鈴木岩弓 実践宗教学寄附講座教授(兼任)
谷山洋三 実践宗教学寄附講座准教授
高橋 原 実践宗教学寄附講座准教授
<学外委員>
岡部 健 (医)爽秋会理事長(2012年9月27日逝去)
伊藤文雄 元ルーテル神学校教授
金田諦應 通大寺住職
井形英絵 南光台教会牧師
佐藤央千 竹駒神社権禰宣
小西達也 (医)爽秋会チャプレン
金沢 豊 浄土真宗本願寺派総合研究所研究員
篠原祥哲 (公)世界宗教者平和会議
(WCRP)日本委員会仙台事務所長
櫻井恭仁 心の相談室理事(財務担当)
<事務補佐員>
佐藤千尋



鈴木 岩弓 教授 Suzuki Iwayumi

1951年、東京都生まれ。東北大学文学部卒業、文学研究科博士課程修了。島根大学助手、講師、助教授を経て、1993年東北大学文学部助教授に、そして現職へ。宗教民俗学を専門とし、死生観・民間信仰概念の展開、流行神の形成過程などを関心領域とする。研究成果は、共著『いま、この日本の家族一絆のゆくえ』(2010年、弘文堂)などで見ることができる。



鈴木 この記事に書かれている、私が事務局として参加している「心の相談室」は、2011年5月に結成されました。

しかし実は、5月以前既に、仙台市内北郊の葛岡斎場に設けられた身元不明者の仮安置所で、震災まもなくの時期から仙台仏教会と仙台キリスト教連合が協働し、宮城県宗教学者連絡協議会の活動として、斎場の一角に机を置いて「心の相談室」と名づけ、遺族の求めに応じて宗派や宗教を超えた形で弔いやお祈りを行っていました。仙台市との約束から葛岡斎場の窓口は4月末日で終了しましたが、4月29日には、津波被害が大きかった宮城県南三陸町の犠牲者を追悼するために、行脚を行うなどの試みも実践しています。

この活動の中で、宗教者は、宗派や宗教を超えて、ご遺族と顔を合わせる場所に座り続けているという事実が大きな意味をもっていることを感じながらも、もっと広く、深く、犠牲者のご遺族の心に寄り添い、やり場のない思いを引き受けることができるようにするためにはどうすればよいかといった苦渋も感じていました。そして、より組織的な活動とするために、葛岡の活動に参加していた宗教者からさらに拡大し、5月からは新しい「心の相談室」が発足。2日には宮城県庁の県政記者会で記者会見を行ったのです。

私は『実践宗教学寄附講座ニュースレター』第1号に、「講座開設の意義と役割」を寄稿し、その中で次のように記しました。

昨年3月に勃発した東日本大震災以後、日本中からさまざまな形の被災者支援が行われてきましたが、阪神・淡路大震災の時と比較して、今回は様々な宗教者・宗教団体の積極的な活動が目立っています。そうした中には、布教伝道を目的とせず、時には異なる宗教的背景をもつ宗教者同士が協働のもとで行う宗教的ケアの場が見られ、被災者に大きな勇気を与えてきました。こうした役割は、キリスト教国におけるチャプレンに相当するものですが、日本においてはこれまで、余り関心をもたれて来ませんでした。東日本大震災の活動現場から、こうした役割に対する意味が見直され、「臨床宗教師」養成を目指す本講座へと結びついたことになります。

宗教者が公共空間で活動することは、宗教者の活躍の場を広げるということだけでなく、価値観、とりわけ人生観・死生観についての葛藤に苦悩する人々に救いの手をさしのべることにもなります。

■発足時の心の相談室の組織概要(敬称略)

会 長	吉永 馨 東北大学名誉教授、仙台ターミナルケアを考える会会長	信楽峻磨	元龍谷大学学長
室 長	岡部 健 (医)爽秋会理事長(2012年9月27日逝去)	島園進	東京大学教授
事務局長	鈴木岩弓	鈴木岩弓	前述
関連団体	宮城県宗教法人連絡協議会(宗法連) 世界宗教者平和会議日本委員会 その他(略)	高田英彦	浄土真宗本願寺派東北教区 現地緊急災害対策本部長
賛 同 者		高橋卓志	臨済宗神宮寺住職
井上ウィマラ	高野山大学文学部准教授	谷山洋三	臨床スピリチュアルケア協会 代表代行ほか
大河内大博	いのち臨床仏教者の会副代表	千葉博男	宮城県神社庁庁長
大下大圓	飛騨千光寺住職	出村和子	仙台いのちの電話理事長
岡部健	前述	戸枝慶	前仙台YWCA理事長
岡本学	真宗大谷派仙台教務所長	殿平真	西本願寺震災支援ネット
柏木哲夫	淀川キリスト教病院 名誉ホスピス長	日野原重明	聖路加国際病院理事長
金田諦應	曹洞宗大通大寺住職	森田成美	真宗大谷派高田教務所長
鎌田東二	京都大学こころの未来 研究センター教授	森山英子	仙台傾聴の会代表
鎌田實	諏訪中央病院名誉院長	山形孝夫	元宮城学院女子大学学長
川上直哉	日本基督教団仙台市民教会 主任担任牧師	吉永馨	前述
ワルデマール・キッパス	臨床バスタラル教育研究センター 理事長	和田美稚子	仙台白百合女子大学学長
木村敏明	東北大学准教授		
小西達也	上智大学グリーンケア研究所 主任研究員		
齋藤軍記	宮城県宗教法人連絡協議会会長		

そして、新生「心の相談室」は、これまでの日本では、死者の弔いは同じ宗派宗教の宗教者の責務と位置づけられてきました。しかし今回のように未曾有の大量死に直面した時、この弔いは宗教者にとって、宗派宗教を超えて広く取り組むべき大きな課題となつていゝるものと思われまゝす。もちろん弔いの儀礼が継続的に行われる一方で、残された遺族に対しては悲嘆ケア、さらには生活の再編に至る包括的な支援が必要になつてくることは言うまでもありません。

その意味で、ご家族に不慮の死者が出たご遺族に対しては、宗教者だけではなく、悲嘆ケアの専門家、さらには医療や生活支援の専門家が一体となつて支援していかねばなりません。「心の相談室」では、宗教者による弔いを手始めに、ご遺族に対する包括的な支援

巻頭インタビューシリーズ ⑥

「実践宗教学寄附講座」と「臨床宗教師」育成の、これから



を提供する仕組みを構築していきます。

との設立の理念をまとめ、ご遺族に対して弔いからグリーンケア(看取り、死者を悼む悲嘆へのケア)まで一貫した切れ目のない支援を行うことを目的として、会則も作成。岩手・宮城・福島の前災三県を対象に、①身元不明者の月命日に合同慰霊祭を行う、②毎週水曜・日曜に電話相談を行う、③移動喫茶Café de Moonを開く、④FM番組として「カフェ・デ・モンク」を放送する、⑤電話相談員の講習会も含めた講演・講習会を開く、などの活動に取り組んだのです。



2011年5月2日 記者会見



心の相談室の活動

Part 3 チャプレンという役割について

「チャプレン」という聞き慣れない言葉が出てきましたが、非常に重要なキーワードのように感じられます。しかし、英語辞書やWikipediaなどで見ると、chaplain:「宮廷・貴族邸・大学・軍隊などの」牧師」「集会での」宗教儀式司会者」「教会・寺院に属さず施設や組織で働く聖職者(牧師、神父、司祭、僧侶)」といった説明となっており、「分かりました」とは言えない内容です。どのように理解すればよいのでしょうか。

鈴木 「実践宗教学寄附講座」で育成しようとしている「臨床宗教師」と

いう用語は、心の相談室の室長であった故・岡部健医師が日本版「チャプレン(chaplain)」として考案した名称です。

岡部医師は、1978年に東北大学医学部を卒業後、抗酸菌病研究所入局、静岡県立総合病院呼吸器外科医長、宮城県立成人病センター呼吸器外科医長などを経た後、自ら岡部医院、医療法人社団爽秋会を設立し、爽秋会では在宅ホスピスを推進してこられた方です。2012年4月には東北大学医学部臨床教授に就任されました。

「心の相談室」設立に当たって岡部医師が強調されたのは、**戦後の日本では、宗教や死生観について語り、この暗闇に降りていく道しるべを示すことのできる専門家が死の現場からいなくなってしまう**。人が死に向かい合う現場に医療者とチームを組んで入れる、日本人の宗教性にふさわしい日本型チャプレンのような宗教者が必要であろうと考えてきました。Vといった専門的な内容であったり、**今、被災地だと霊的ケアができる人は宗教者しかいません**。特に地域をよく知った宗教者。地域のお寺さんに幽霊が来たと言っても別段不思議なことではなく、まだそのへんにいて、おまえらのことが心配なんではないのか、お経をあげるから心配するな、と言いつけるのは宗教者しかないですねVといったざつとばらんな口調の話でした。

臨床医師は、病気を癒す役割を担っています。死について語ることには許されません。臨床心理士は、生きていくために必要な心理面について分析、検証し、アドバイスする役割です。お迎え現象などについては精神に異常をきたしていると分析する立場ですから、これもまた死について触れることはできません。死と向き合い、あの世について語り、輪廻転生を説き、死者とふれあうという非常にスピリチュアルな側面からの心のケアが許されるのは宗教者です。ただし、たとえば日本ではそこには宗派宗教の大きな壁があり、すべての宗教者がすべての人に対応できるという融通無礙な関係はないというのが現状です。

では、この「チャプレン」とはどういう存在なのでしょう。特に病院、軍隊、刑務所など、大勢の人が集まる公共的な場所を想定してもらえばよいでしょう。これらは、死が不可避となる場所です。

日本では、宗教者は、死者と向き合うことはできませんが、生者と向き合うことは避けられる傾向があります。日本では亡くなった後に宗教者の出番が回ってくるために、宗教者が病院や自衛隊に出入りす



谷山 洋三 准教授 Taniyama Youzou

1972年石川県金沢市生まれ。東北大学文学部卒業、同文学研究科博士課程修了。長岡西病院ビハラー棟棟ビハラー僧、四天王寺国際仏教大学准教授、聖トマス大学准教授、大谷大学研究員等を経て、2012年4月に現職へ。スピリチュアルケアと宗教的ケア、グリーフケアにおける宗教の意義等に関心領域とする。



高橋 原 准教授 Takabashi Hara

1969年東京都生まれ。東京大学文学部卒業、同人文社会系研究科博士課程修了。財団法人国際宗教研究所研究員、東京大学人文社会系研究科助教を経て、2012年4月に現職へ。宗教学、宗教心理学、近代日本の知識人宗教、明治の新佛教運動等を研究分野とする。

Part 4 信仰心との対話、ラポールな関係、公共性

ることなど許されにくいでしょう。それに対して、欧米では宗教者は生者と向き合う立場にあり、死を前にした本人や家族と向き合い、心に寄り添う役割を担っていることから、病院にも、軍隊にも宗教者がその居場所を持っています。ただし、病院や軍隊にいる人々は多様な出自を持っており、宗派宗教もバラバラです。それらの人に対して一様に対応することが許される存在として、宗派宗教を超えた宗教者として訓練を積んだ「チャプレン」がいるのです。

たとえばアメリカでは、ハーバード大学のチャプレン育成コースなどがあります。ハーバード大学はもととが清教徒会衆派が設立した宗教学校であり、今でも神学校があり、厳格な宗教教育も行われています。しかし、一方ではヒンズー教、イスラム教、仏教などの専門的な研究者もおり、教派、宗派を超えて人が死を迎える現場に立ち合い、最後の看取りをする宗教者、つまりチャプレンの育成も徹底されているのです。

——訓練された専門家であるということで、欧米では宗派宗教を超えてチャプレンの役割が認められているわけですね。それに対して、日本でも「臨床宗教師」の資格を得たチャプレンの専門家を育てて地域に入って行ってもらおう、というのが寄附講座の目指していることだということが分かってきました。では、地域の人々の間では、どのような変化があるのでしょうか。チャプレンの役割が受け入れられそうな、意識変化があるのでしょうか。

鈴木 この東日本大震災でどんなことが起こったのでしょうか。

宮城県だけでも9537人の死者(2013年6月10日警察庁調べ)が出ました。そして、その多くが震災直後の3月から4月にかけて発見され、短期集中的に葬送しなければならないという異常事態となりました。目もあてられないくらいに傷んだご遺体と対面しなければならぬケースがほとんどでした。火葬もままならず、神社仏閣が流され、墓地が流されたため、仮の埋設場に土葬をしなければならぬ

というケースも少なくありませんでした。普段どおりに葬儀・告別式を行うことはもちろん、火葬場での最後のお別れに宗教者が立ち合うことすら困難となりました。

遺体が見つからない人はどこで、どうしているのだろうか。火葬できなかつた人は、本当に成仏できるのだろうか。…ご遺族の心情は図り知れないほど痛ましいものでした。送り出した後でも、ご遺族には堪え難い傷が残りました。まさに、臨床医師や臨床心理士が対応できるものではありません。宗教者しか対応できないものです。しかし、そこには宗派宗教という壁がありました。どうすれば、ご遺族の心情に向き合うことができるだろうか。…実は、そんなことを考えている時に、10年来の親交があつた岡部医師から話があつたのです。

岡部医師は在宅ホスピスをされていたのですが、その中にはお迎えを見る人がけっこういるということに気づかれました。在宅訪問して話している時に、突然「ああ、おじいちゃんが来た」とか言うんだそうです。「先生、見えないの？ここにおじいちゃんいるじゃないか」って。岡部医師の経験則としては、お迎えを見た人は大往生するという結論に至り、お迎えを見るというメカニズムをきちんと考えてみようという意識になっていきました。

同じようなことを、私は、自分のフィールドワークの中で、あるいは外国の学会などで経験していました。研究室の院生などと一緒に地域に出かけていき、聞き取り調査をすれば、かなりの人がお迎えを見ているのです。つい昨年も、ニュージーランドの学会で、「ベッドサイドヴィジョン」に関する発表を聞きましたが、質問者の第一声は発表された勇氣に敬意を表しますというものでした。

岡部医師は、自らが末期ガンになった時に、死の世界へ入らなくちゃならないのは分かっているのに、どの道をどう生きたらいいか、道しるべが一つもない、そこに降りていくのはすごく辛いし、不安だと感じたそうです。そして、医師にも心理士にも相談できない、宗教者にしか導いてもらうことはできないと考え、看取りをしてくれる宗教者が必要だという強い認識になり、心の相談室の活動へとつながっていったというわけです。

——「お迎えを見る」という経験則は、宗派宗教とは関係があるので

巻頭インタビューシリーズ ⑥

「実践宗教学寄附講座」と「臨床宗教師」育成の、これから

東日本大震災以後に発表したものとしては、文学研究科研究者が共同でまとめた『今を生きる 1人間として』(2012年、東北大学出版会)の中の、「第六章 東日本大震災時の土葬選択にみる死者観念」などの研究成果がある。



しょうか。また、一般の人は、自分の家の宗派宗教を自分で分かつていて、そこに救いを求めるものなのでしょうか。

鈴木 私たちの全国調査では、日本人のいたい6割くらいの方が、死後の靈魂を信じています。お墓に行つて手を合わせて、墓石の中にいる祖先母などの霊と向き合っているのです。

しかし、多くの人は、墓があるから寺に行っているのであって、宗派宗教を選んでお参りに行っているわけではありません。そこにあるのは、組織性の高い宗教心ではなく、信仰心だと言った方がよいでしょう。広くは、道端のお地藏さんに手を合わせたり、山の上でブロッケン現象を十字架に見立てて思わず手を合わせたりする、素朴な感覚的なものとしての信仰心と同じものです。

私は、宮城県栗原市の曹洞宗通大寺・金田諦應住職が始められた傾聴移動喫茶「Cope of Moon」を訪ねて石巻に行った時に、カフェに集まつてこられた方々とお話をする機会がありました。そこで、ある方と盛り上がったのは墓の話でした。震災前に墓をつくつただけで、高台だったので流されずにすんだといった話から始まり、私の方も自分の研究の中での墓への興味や研究視点などを話して、互いに信頼しあい、安心して感情の交流ができる「ラポールな関係」を結ぶことができました。

その時感じたのは、私たちのフィールドワークのノウハウが、ケアの第一段階で使えるのではないかという感覚でした。フィールドワークは、相手に話してもらわなければ成り立ちません。その話のきっかけをどうつくるかというのが、フィールドワークの基本です。石巻での私の経験では、墓が、そのきっかけになったのだと理解しています。

きっかけとなりうるものは、何なのか。「意味づけ」なのだと思います。人は、自分が向き合っていることについて認めてもらいたいと思っており、自分が理解できる意味づけを提示してもらえば安心できるわけです。たとえば、世界各地にシャマンといわれる拝みやさんがいますが、能力のあるシャマンはポイントになるようなところで方向づけをするだけで、自分はまだ喋らずに聞き手に徹し、相手に話をさせるのです。

ご遺体と向き合ったご遺族の皆さんは、自分が生き残ってしまったことに苦しみ、死者の満足がいくように送り出せたかどうか、死者が安

心して成仏できているかどうかといったことに悩みつづけています。だから、僧形の姿を見れば「お坊さん、来て、来て」と呼びかけ、仏壇を拝んでもらい、困っていることについて話を聞かせてもらうという行動に出ます。その時、何教なのか何宗なのかは、関係ありません。宗派宗教を超えて、それに応え、ラポールな関係をつくり、じっくりと話を聞き、意味づけをしてあげることが公共性ある仕事ではないか。岡部医師はそう強調しました。私たちは、心の相談室へ寄せられた宗教界からの寄附金を基に、「臨床宗教師」を育て送り出す「実践宗教学寄附講座」へとその活動を発展させてきたのです。

Part 5 「カフェ・デ・モンク」との連携を、さらに

いま、鈴木教授が「心の相談室」事務局長の立場から締め括りの寄稿をされた『ラジオCafé de Monk インタビュー集 震災後を生きるヒント』（発行：心の相談室。2012年12月）を手にとることができ、ます。「心の相談室」の活動には、岩手・宮城・福島3県で移動喫茶Café de Monkを運営すること、FM番組「カフェ・デ・モンク」を放送すること、もうたわわえています。また、「実践宗教学寄附講座」の臨床宗教師研修プログラムの中には、カフェ・デ・モンクでの実習が組み込まれています。最後に、カフェ・デ・モンクとの連携についての今後の取り組みをお聞かせください。

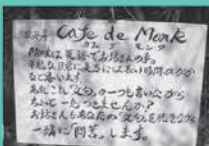
鈴木 カフェ・デ・モンクは、前述した金田諦應住職が5月15日から始められた傾聴移動喫茶「カフェ・デ・モンク」が発端でした。金田住職は、小型トラックのカフェモン号に「Café de Monk」の黒板を掲出。コーヒー、紅茶、お抹茶、コーラ、クリームソーダなどの飲み物に、5種類から10種類くらいのケーキを揃え、南三陸町ベイサイドエリアの沼田というところをスタートに、ボランティアで三陸沿岸各地の仮設住宅を回り始めたのです。

金田住職は、写真のようなメッセージボードで、
Monkは英語でお坊さんの事。

平穏な日常に戻るには長い時間がかかると思います。

巻頭インタビューシリーズ ⑥

「実践宗教学寄附講座」と「臨床宗教師」育成の、これから



『ラジオCafé de Monkインタビュー集 震災後を生きるヒント』



あれこれ「文句」の一つも言いながら
ちよつと一息つきませんか？

お坊さんもあなたの「文句」を聞きながら
一緒に「悶苦」します。

と名称についての由緒を説明しています（モンクにはもう一つ、セロニアス・モンクの意味もあり、カフェ開店中にはモンクのジャズ・ピアノがBGMに流されるのです）。

また、金田住職は、上記インタビュー集の冒頭の対話で、インタビューの板橋恵子さん（仙台市防災会議委員ほか）に向かって、その活動は「いろいろなお話を伺いながら少しでも心に寄り添って元気になっていただきたいという目的」のものだと語っています。

そして、出合った人々の様子について、次のような内容を語り合っています。

金田 最初に食べていただけて、ニコッと笑って、次に「おばあちゃん、津波どうだったの？」と聴くと、どんどん、その当時の大変だったこと、今に至るまでの大変だった、それぞれのストーリーを語りだします。

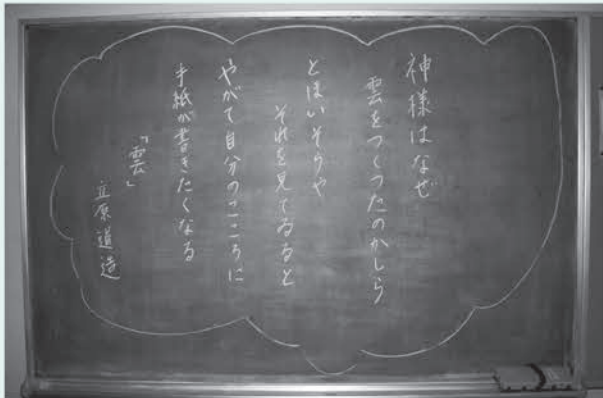
板橋 話したいという思いが傍らにあつて、でも話す環境にないし相手もない。たぶん二ヶ月を経て、自分の中に溜め込んでいたものがカフェという空間の中で、ふつと緩んで、どんどん、どんどん出てきちゃったんでしょうね。

「心の相談室」が目指しているものは、まさにこのようなふれあいです。心の相談室では、被災者との直接対面的な機会を増やすため、カフェ・デ・モンクとの合流を実現。5月15日から心の相談室のコミュニケーション活動の一環として被災3県で傾聴移動喫茶を実施すると同時に、10月1日からは3県のFM局でラジオ版「カフェ・デ・モンク」の放送を実現したのです。これは現在も、土曜日の朝にエフエム仙台から聞くことができます。

地域の人々とのふれあい、語り合いができる「カフェ・デ・モンク」は、臨床宗教師の研修のためには、実践的な体験のできる場所となります。今後、連携を強化していくこととなるでしょう。将来、われわれのこうした活動が実を結び、日本中の病院、介護施設に一人は臨床宗教師が常駐する社会が実現できればと思っています。その意味で、宗教界からの social movement が起こせればと考えています。

宮城県仙台第二高等学校図書館との対話

進学高校の生徒の、“最近の若い者”の読書傾向を聞いてみた



仙台第二高等学校（以下、仙台二高と略）は、宮城県を代表する進学校です。東北大学川内キャンパスから徒歩で5分程度と東北大学にも近く、毎年多くの東北大学合格者を送り出しています。

そのような高校での、図書館の蔵書傾向、生徒の読書傾向は、どのようなものなのでしょうか。図書館として、どのような考えによって図書を揃え、生徒の図書利用を進めているのでしょうか。この4月に赴任したばかりの司書と図書部長に取材しました。

図書館入口には広報用のボードがあり、司書自らが選んだ詩句が記されています。4月は「たつぷりと 春は 小さな川々まで あふれている あふれている」という山村暮鳥『春の河』、5月は「神様はなぜ 雲をつくつたのかしら とほいそらや それを見てみると やがて自分のところに 手紙が書きたくなる」という立原道造『雲』でした。簡潔な文芸作品を通して、言葉や思考の広がりや深さを知り、図書への関心を強めるきっかけとしてもらえたら…との意図で選んでいるそうです。

読みやすい本へ、という傾向

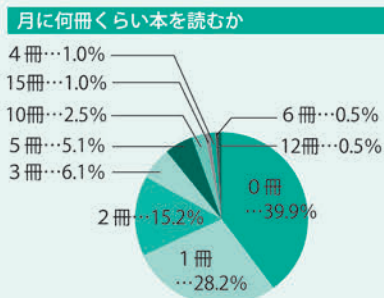
仙台二高図書館では、2010年に第3学年5クラス198人に「読書傾向と図書館利用について」のアンケート調査を行っています（表1）。

「月に何冊くらい本を読むか」の問いに対しては、0冊が約40%いましたが、1〜2冊が約43%で、1人当たりの平均は1.5冊。「対象となる分野」の問いに対しては、大衆文学が70%弱、実用書と純文学が30%弱という内容でした。その当然の流れとして、「もっとも好きな作家」も、上位には、芥川龍之介を除けば、大衆文学といわれるジャンルの人気作家・話題作家の名前があげられました（古典分野では、夏目、芥川、太宰、以外の作家の名前が目立たなくなってきたことが指摘されています）。

図書館では、高校生が全く本を読まなくなったというのではないが、読みやすい本へという傾向は否めないのではないかと話し合ったそうです。

これに対して、最新の読書傾向は、どんな

表1) 2010年・読書傾向と図書館利用についてのアンケート調査結果より（一部抜粋）



読書の対象となる分野（複数回答可）

大衆文学…67.7%
 実用（技術、生活、趣味、健康）…29.3%
 純文学…27.7%
 雑学（話の種）…18.7%
 自然科学…14.6%
 哲学…13.6%
 社会科学…9.6%
 芸術…6.0%
 建築…1.0%

もっとも好きな作家・著者

伊坂幸太郎…17.2%	あさのあつこ…3.0%
村上春樹…6.1%	宮部みゆき…2.5%
東野圭吾…6.1%	西尾維新…2.5%
芥川龍之介…3.5%	星新一…2.0%
米澤穂信…3.0%	恩田陸…2.0%

ものでしょうか。次ページ表2の2012年度の年間貸出上位リストを見ると、最近の話題小説がほとんどであり、2010年の調査結果と変わらないものと言えるでしょう。ここでも、芥川龍之介が出てきますが、夏目漱石『こころ』、芥川龍之介『河童・或阿呆の一生』、太宰治『人間失格』、ヘッセ『車輪の下』といった古典が輝いて見えてきます。現司書は、前任が中高一貫校でした。ここでの利用状況を見ていた時には、中学生がけっこうな冊数を読んでいるのに対して、高校生は仙台二高の調査とほとんど同じような傾向だったと言います。高校生の読書数が減り、読みやすい方へと傾斜していくのは、受験勉強からの影響も否めないのでしょう。それに加えて、読みやすい方向へという傾向は戦後ずっと続いており、その積み重ねの結果として、1960年代、70年代よりも現在の方がさらに読みやすい読書へ、楽しい読書へと進んでいるのではないかと二人はつけ加えました。

読んでほしい本、という視点

では図書館としては、どんな方向へと進めようとしているのでしょうか。生徒たちが手にしたいと思う本よりも、読んでほしいと思うような本と出合っしてほしい。調べてみよう、他の本を読んでみようと思わせるような本と出合っしてほしい。そのために、目につくところに取れるところに、刺激となる図書を揃えたい、というのが基本の考え方です。

そのため、仙台二高図書館では、毎年2回（5月、10月）にわたって生徒の希望をとり、教員、図書館の希望を加えて600冊程度の年度購入図書を決定しています。教員からは、教科指導に役立てるための資料としての要望が高いそうです。分野別でいえば、社会、国語、理科、そして英語からの希望が多くなります。

20〜30冊程度の購入数となっている「哲学・宗教」「歴史・地理」「言語」の2012年度

表2)2012年度の貸出トップ50

PK 伊坂幸太郎
シュガータイム(文庫版) 小川洋子
食堂かたつむり 小川糸
アドリアネの弾丸 海堂尊
ストーリー・セラ 有川浩
夜の国のクーバー 伊坂幸太郎
博士の愛した数式(文庫版) 小川洋子
神様のカルテ2 夏川草介
謎解きはディナーのあとで2 東川篤也
No. 6#9 あさのあつこ
あなたは自分を利口だと思いますか? ジョン・ファードン
ヒア・カムズ・ザ・サン 有川浩
あのこと さくらももこ
アヒルと鴨のコインロッカー 伊坂幸太郎
グラスホッパー 伊坂幸太郎
オーデュボンの祈り(文庫版) 伊坂幸太郎
ラッシュライフ 伊坂幸太郎
終末のフール 伊坂幸太郎
ドミノ(文庫版) 恩田陸
妊娠カレンダー(文庫版) 小川洋子
塩の街 有川浩
オー！ファーザー 伊坂幸太郎
数学ガール フェルマーの最終定理 結城浩
謎解きはディナーのあとで 東川篤也
心を整える 長谷部誠
県庁おもてなし課 有川浩
舟を編む 三浦しをん
困ってるひと 大野更紗
ナミヤ雑貨店の奇蹟 東野圭吾
神様のカルテ3 夏川草介
旅猫リポート 有川浩
ころ(文庫版改版) 夏目漱石
硝子のハンマー 貴志祐介
西の魔女が死んだ(文庫版) 梨木香歩
重力ピエロ 伊坂幸太郎
アフガニスタンに住む彼女からあなたへ 山本敏晴
人間失格(文庫版) 太宰治
限りなく透明に近いブルー(文庫版) 村上龍
定年ゴジラ(文庫版) 重松清
空の中 有川浩
車輪の下で(古典新訳文庫) ヘッセ
河童・或阿呆の一生(文庫版) 芥川龍之介
氷菓(文庫版) 米澤穂信
モダンタイムス 伊坂幸太郎
熱力学で理解する化学反応のしくみ 平山令明
ぼくは勉強ができない(文庫版) 山田詠美
夏期限定トロピカルパフェ事件(文庫版) 米澤穂信
重力ピエロ(文庫版) 伊坂幸太郎
リバーズ・エンド(文庫版) 橋本紡
数学ガール 結城浩

購入リストは、別記表3のとおりです。けっこうバラエティに富んでいるのではないのでしょうか。「社会科学」「文学」は冊数が多いため、「芸術」は写真や音楽ジャンルの本が多いことから割愛しましたが、「芸術」分野では東北大学文学研究科・長岡龍作教授責任編集の『日本美術全集 第2巻 法隆寺と奈良の寺院』が購入図書の一冊となりました。

仙台二高図書館では、これに加えて、継続して取り組んでいるいくつかのアイデアがあります。①東洋文庫を全巻揃える、②漢文大系も全巻揃える、③「小論文のために読んでおきたい本」のコーナーを設ける、④「二高の教員がすすめる本」のコーナーを設ける、⑤仙台二高推薦図書100選「言葉の沃野へ」を新入生全員に配布する、⑥教員が選んだ「推薦図書」リーフレットを図書館に配置するといった取り組みです。作品社の

「日本の名随筆(本巻・別巻)」を全巻揃えるというの含まれるでしょう。

次々と新刊も加わっていく東洋文庫のコーナーは、圧巻です。「小論文のために読んでおきたい本」のコーナーには、中公クラシックス、講談社ブルーバックス、みずす書房シリーズ理想の教室が揃っています。

教員が選んだ2012年度の推薦図書は表4の内容であり、多彩な本がリストアップされています。

しかし残念ながら、これらの企画によっても、願っているほど読まれているわけではないようです。それでも、図書館のオーブンスペースに本があるということが重要であり、さまざまな図書が出版され、たくさんテーマや視点があるという現実をちょっとでも目にすることに意義があるとの視点から続けられているのです。



漢文大系コーナー



東洋文庫コーナー

表3)2012年度購入図書リストから

【哲学・宗教】…25冊
哲学の練習問題(文庫版)
人と思想189・192・193
感性の限界(新書版)
日本の思想(新書版)
物語哲学の歴史(新書版)
ソクラテスの弁明(古典新訳文庫)
自由論(古典新訳文庫)
道徳形而上学の基礎づけ(古典新訳文庫)
孤独な散歩者の夢想(古典新訳文庫)
あなたの中の異常心理(新書版)
錯視図鑑
夢解釈 初版上・下
功利主義入門(新書版)
二宮翁夜話
続・悩む力(新書版)
「そこそこほどほど」の生き方(文庫版)
人を動かす
これからのリーダーに贈る17の言葉
神も仏も大好きな日本人(新書版)
シャーマニズム1(東洋文庫)
イスラームの善と悪(新書版)
キリスト教の真実(新書版)
【歴史・地理】…37冊
人類の歴史を変えた8つのできごと1・2(新書版)
世界史 上・下(文庫版)
137億年の物語
出雲と大和
新撰組願末記(新装版)
日清戦争「国民」の誕生(新書版)
明治時代史大辞典2・3 さ～な・に～わ
ドキュメント太平洋戦争全史
写真で読む昭和史太平洋戦争
アースダイバー
図説英国執事
アウシュヴィッツ博物館案内
田中角栄と生きた女
新島八重 愛と闘いの生涯(選書版)
チェザーレ・ボルジアあるいは優雅なる冷酷(文庫版)
旅に出たくなる地図 世界
旅に出たくなる地図 日本
ベーシックアトラス世界地図帳(新装版)
ベーシックアトラス日本地図帳(新装版)
世界の国々1～10
完訳日本奥地紀行1～3(東洋文庫)
原色ニッポン《南の島》大図鑑
南極大陸に立つ
【言語】…17冊
言語が違えば、世界も違って見えるわけ
大辞泉 上巻・下巻
常用字解(第2版)
女ことばと日本語(新書版)
論理が伝わる世界標準の「書く」技術
沖縄語の入門
まずはこれだけ中国語(CD版)
まずはこれだけ韓国語(CD版)
まずはこれだけドイツ語(CD版)
まずはこれだけフランス語(CD版)
まずはこれだけイタリア語(CD版)
日本人の英語(新書版)
日本のことを英語で話そう
アクセス独和辞典
あらかず文法 中級フランス語
よみとく文法 中級フランス語

表4)推薦図書2012の図書

遺伝子はダメなあなたを愛してる
復讐して栄光(上・下)
すうがく博物誌(上・下)
不毛地帯
二つの祖国
大地の子
人を動かす
メンタルタフネス
ふしぎなキリスト教(新書版)
世界を公定する哲学
墮落と文学ー作家の日常、私の仕事場ー
写真で読む昭和史
日清戦争(新書版)
空飛ぶタイヤ
日本人の英語(新書版)
アラブとイスラエル(新書版)
ジェノサイド
銀河英雄伝説

もしも高校野球の女子マネージャーが ドラッカーの「マネジメント」を読んだら
石巻赤十字病院の100日間
あなたの中の異常心理
四国はとせこまで入れ換え可能か
とんび
インドの衝撃
これで、おしまい
一步を越える勇氣
原発危機と「東大語法」
ぼくは勉強ができない
若いあなたへ!
前世療法・前世療法2・魂の伴侶
朗読者
動物のお医者さんになりたい
とれたての短歌です。
人間の覚悟
アルジャーノンに花束を



言葉の沃野へコーナー



文庫本コーナー



小論文のために読んでおきたい本

東北大学との関わり、東北大学への関心

実は、仙台二高図書館には、図書館に入る
とすぐに目に入る入口近くの場所に「東北大
学出版会寄贈図書」のコーナーがあり、人文
社会科学と自然科学の両分野にわたる出版
会発行図書のほとんどが並んでいます（出版
会では、宮城県内では他に、仙台第一高等学
校に寄贈しているとのこと）。

また、仙台二高では、一般利用に開放して
いる東北大学図書館を利用して、遅くまで開
いている自習室などを使っている生徒が少
なくありません。
宮城県内の県立高校の図書館は、年々予算
が縮小されており、なかなか希望どりの図
書が購入しにくくなっているそうです。そ

れを補っているのが保護者（PTA）・卒業
生からの寄付であり、社会的に活躍している
卒業生の大小によって、高校間に差も生まれ
ているようです。

そんな中で、東北大学出版会からの寄贈
東北大学図書館の存在は、大きな助けになっ
ていると司書は結びました。

なお、二高図書館では、東北大学文学部・
文学研究科教員及び同窓生に関して、表5、
表6のような図書を見つけることができま
した。今後は、文学部・文学研究科として高
校図書館との連携のような方向もありうる
のかもしれない。

表5) 仙台二高図書館の中の文学部・文学研究科教員の著作
(五十音順／単著・共著・編著等)

阿子島香教授	ことばの世界とその魅力
今井勉教授	人文社会科学講演シリーズ5 生と死への視点
戸島貴代志教授	
正村俊之教授	
岩田美喜准教授	ポストコロナ批評の諸相
金子義明教授	人文社会科学の新世纪 東北大学文学部から世界へ
鈴木岩弓教授	
沼崎一郎教授	
尾崎彰宏教授	今を生きる 東日本大震災から明日へ！ 復興と再生の提言1
座小田豊教授	
佐倉由泰教授	東北人の自画像 人文社会科学講演シリーズ4
三浦秀一教授	
柳原敏昭教授	
山田仁史准教授	
佐藤弘夫教授	日蓮 われ日本の柱とならむ
千種真一教授	食に見る世界の文化
長岡龍作教授	日本美術全集第2巻 飛鳥・奈良時代1
沼崎一郎教授	つながりの文化人類学
芳賀京子准教授	都市を描く 東西文化に見る地図と景観図
長谷川公一教授	脱原子力社会へ 電力をグリーン化する

表6) 仙台二高図書館の中の文学部・文学研究科同窓生の著作
(五十音順／単著・共著・編著等)

青木生子氏	校注 万葉集1～5
青木美智男氏	日本の歴史別巻 日本文化の原型 他
有馬哲夫氏	昭和史を動かしたアメリカ情報機関
井口時男氏	漂流物
内館牧子氏	エイジハラスメント／毛利元就 上・中・下
菅野仁氏	友だち幻想／人と人の〈つながり〉を考える 他
木田元氏	ハイデガー／偶然性と運命 他
今野勉氏	テレビの嘘を見破る／鷗外の恋人 他
佐藤賢一氏	フランス革命の肖像／小説フランス革命1～6 他
繁田信一氏	殴り合う貴族たち 平安朝裏源氏物語 他
高橋富雄氏	人物日本の歴史4 武士の挑戦 他
中村靖彦氏	食の世界にいま何が起きているか 他
深井甚三氏	富山県の歴史
前田勉氏	新編日本思想史研究 村岡典嗣論文選 他
町田三郎氏	孫子
宮坂有勝氏	梅原猛著作集5 仏教の思想(解説)
山折哲雄氏	人と思想42 道元／17歳からの死生観 高校生との問答集 他
山形孝夫氏	聖書の起源／聖書小事典 他
山田史生氏	寝床で読む『論語』／これが凡人の生きる道



東北大学出版会寄贈図書



写真は「富山房五十年」より複写

1932年、日本初の西洋史学専門研究雑誌『西洋史研究』を創刊

日本における“西洋史学の先駆者”の一人とされる大類伸博士の業績の中でも、特筆すべきものとして真っ先に紹介したいのは、1932年6月の研究雑誌『西洋史研究』の創刊です（富山房より発行）。

これは、東北帝国大学法文学部西洋史研究室が、大類伸博士を代表者として「西洋史研究会」を組織し、編集、発刊したものであり、日本で初めての西洋史学プロパーの専門学術誌でした（1940年まで継続）。1955年の復刊、1972年の新輯以後も連綿として続きました。

この創刊号において、西洋史研究室第一講座・中村善太郎教授（東北大学在籍1922-35年）は、「発刊に際して」と題して「近時史学研究の日は遂に隆盛に向ひつゝある時、我西洋史研究室出身の少壮学者及び学生を中心とする『西洋史研究』世に出づ。先覚者の開拓と新学風の擡頭により旧態を一変せる西洋史の研究は、その前途洋々たるものあるも研究の至難なるは依然たり。史学は努力の学なり。願はくは会員諸君の旺盛なる研究慾により、本誌の健全なる発展を期待すること頗る切なり。」と宣言。続けて、大類博士が「ブルクハルトの『伊太利ルネサンスの文化』を読む」の巻頭原稿を寄稿し、「序説」を次のような一文で書き起こし、学問としての史学研究にとって史観の必要なことをうたいあげました。

東北大学の西洋史学の礎を築いた

大類伸博士

Orui Noburu

東京都出身。1884-1975。1920-23年、ヨーロッパ中世史研究のためフランス・ドイツ・イタリアに留学し、帰国の翌年、東北帝国大学法文学部西洋史研究室史学第二講座教授として着任（東北大学在籍：1924-44年）。ヨーロッパ中世史、中でもイタリアルネサンスの研究・教育を中心に先駆的業績を残した。1937年に帝国学士院会員となり、1943年には日本諸学振興委員会歴史学会の常任委員として西洋史部門の運営に尽くした。城郭研究にも多数の研究成果がある。



ヤコブ・ブルクハルトの名著『伊太利ルネサンスの文化』が彼の著書中最も特色ある代表的な著作であるのみでなく、近代西洋史学史の上に画期的著作として独自の地位を占めて居ることは云ふまでもないが、それほどの名著でありながら尚多くの史家からして、同書に於ける著者の態度が所謂歴史的でないこと、乃至伊太利ルネサンスに対する著者の態度に史的見解の欠けて居ることなどが指摘されて、近代的な史観から見て同書の価値を軽く見る傾向が無いでもない。固より此の如き非難がいかにも多く加へられたとて、ヤコブ・ブルクハルトの名は依然として史学史上に燦として輝いてゐるが、併し同書を読む者の立場としては、以上の批判にたいして先づ注意を向けざるを得ない次第である。（後略／旧仮名遣いはそのままとし、漢字は現代漢字に修正した）

2012年、「西洋史学の先駆者」として大類博士にスポット!!

1932年の『西洋史研究』創刊が日本における西洋史研究雑誌の始まりであったということは、それまで、日本の西洋史研究はどのような状況だったのでしょうか。

そもそも、例えばブルクハルトなど西洋史学者の研究成果や、「ルネサンス」といった訳語や概念は、どのように日本に伝わり、理解されてきたのでしょうか。大類伸博士の西洋中世史研究やルネサンス研究は、どのようなポジションにあったのでしょうか。

これらの基本的な疑問への答えとなる著作が、2012年6月に刊行されました。「橋大学名誉教授・土肥恒之氏近代ロシア社会史の『西洋史学の先駆者たち』(中公叢書)です。本書では、先駆者の一人として、上原専禄(1899-1975)、大塚久雄(1907-1967)らと並んで大類博士の存在と業績がクローズアップされました。

日本の西洋史研究の始まりと ルートヴィヒ・リース

幕末・明治維新の開国により、西洋はわが国の近代化のモデルとなり、初めはお雇い外国人(なんと3000人近くにもなります)によって、その後は留学から帰国した官僚や学者たちによってさまざま

な西洋事情がまとめられ、翻訳・翻案本が積み重ねられました。『西洋史学の先駆者たち』は、日本における学問としての西洋史学研究は、1887年のドイツ人歴史家ルー

トヴィヒ・リース(1861-1928)の東京帝国大学着任、半年後の史学科開設に始まるととらえています。リースは、ベルリン大学でランケの歴史学の強い影響を受け、中世イングランド議会史研究で学位をとった人です。日本では、慶應義塾大学や陸軍大学でも教壇に立ち、西洋中世・近世に関するさまざまな問題を扱い、中でもイギリス中世について細かな考察を伴う講義も行いました。

大学の図書館にもヨーロッパ史の刊行資料など全くない時代でしたが、スペイン、ポルトガル、イギリス、オランダなどと日本の交渉史に関する生の史料は豊富にありました。リースは、これらの古文書を利用した東西交渉史の学習、研究を学生に奨励。日本における歴史学の礎石づくりに尽力した、と土肥氏は記しています。

1918年「興亡史論」、 1923年「泰西名著歴史叢書」の刊行

そして土肥氏は、大正デモクラシ

の時代とからめながら、リース後の日本の西洋史学の一つの区切りとして、1918年に始まった興亡史論(全21巻(興亡史論刊行会)、1923年に始まった「泰西名著歴史叢書」全14巻(国民図書)を紹介しています。

特に「泰西名著歴史叢書」については、ブルクハルトの『ルネサンスの文化』が本邦初訳された(1924年2月)ことで画期的なものであったことを強調しています。

訳者・岡崎万里は、「邦訳の辞」で、大類博士からブルクハルト肖像とメダチ家の人々の口絵を提供されたことにふれながら、「原著者の小伝」で(本書は、既に仏(二種)、英伊匈及びポーランド語に反訳せられ、イタリア訳には、彼れ自らの訂正が加へられ、今又拙訳によつて、初めての邦訳が試みられたのである。)と記しています。

なお、「興亡史論」中の『史論叢録』上下巻は、東北大学赴任以前の大類博士が編者となっています。

東北大学の西洋史研究は、 どのように始まったか?

このような時代、大類博士は1905年、リースが帰国した年に東京帝国大学文学科に入学。リースによってつくりあげられた史学を

学び、「城郭史の研究」の論文で文学博士の学位を得ました。そして1916年には西洋史に関する最初の著作である『西洋時代史観(中世)』を発表するなど西洋史への傾斜を強め、1924年、ブルクハルトの『ルネサンスの文化』が初訳された年に東北帝国大学に赴任したのです。

『西洋史学の先駆者たち』は、「第三章 文化史的観照を超えて―大類伸のルネサンス論とその周辺」において、大類博士と東北帝国大学西洋史研究室について言及。ブルクハルトの『イタリア・ルネサンスの文化』が1920年代(大正末から昭和初期にかけて)、複数回の翻訳が行われた歴史にふれながら、「それは必ずしも文化的砂漠に咲いたあだ花ではなく、わが国にお

■「泰西名著歴史叢書」のラインナップ (訳者名割愛)

- (1)希臘羅馬史論(クウランジュ)
- (2)歐洲文明史(ギゾウ)
- (3)神聖羅馬帝国(ブライス)
- (4)ルネサンスの文化(ブルクハルト)
- (5)歐洲近世史(ランケ)
- (6)(7)(8)大英国民史(グリーン)
- (9)大革命前の仏国(ティエン)
- (10)(11)独逸思潮史(チイグレル)
- (12)米國近世史(ハウオス)
- (13)(14)歴史哲学(ヘルデル)



西洋史学の画期となった『西洋中世の文化』『ルネサンス文化の研究』

ける文化史への関心を示す現象として注目しておきたい。特に東北

帝国大学の大類伸とそのグループを中心に西洋史家のあいだでその

土壌が形成されつつあり、裾野はより広いということも出来るのであ

る。」と記しています。

『西洋史学の先駆者たち』は、大類博士の『西洋中世の文化』(1925年)、『ルネサンス文化の研究』(1938年)、『ルネサンス文化の潮流』(1943年)などを取り上げながら、堀米庸三氏(1913-75。東京大学名誉教授。西洋中世史の次のような評価を紹介しています。

ドイツの正統史学の伝統を受け継ぎ、政治史を中心においたわが国の西洋史学も、昭和の初年にはランプレヒトなどの影響の下に、強い文化史ないし精神史への傾向を示していた。当時の文化史的

研究において若い研究者をひきつけたのは、大類伸博士の研究であり、博士のきわめて初期の著であるとはいえ、その『西洋中世文化』(大正十四年初版)は、巻末の簡便な文献解題とともに、中世史研究の唯一無二の入門書となっていた。

残念ながら、私たちは今、『西洋中世の文化』『ルネサンス文化の研究』をはじめとする大類博士の著作を書店で手に入れることはできません。大学図書館や、大きな公共図書館で見るとあります。しかし、それらを手にしたとき、時

代性を超えて、引き込まれていくでしょう。

たとえば『西洋中世の文化』は、「一人の強き天の使、白の如き巨なる石を取り、これを海に投て曰けるは、大なる城、バビロン此の如く烈しく打仆されて再び顕る事なからん。」という黙示録(18・21)からの引用文を添えた図版で扉が始まり、多くの図版を参考資料としながら本文を読むことができます。「中世は往々にして暗黒時代と呼ばれて居る、暗黒時代の名がぬしも価値の無い時代との意味ではないとしても、確かに好ましい感じを

以て迎へられない時代であらう。」と書き出した「第二章 中世の始「序説」には、左記のように博士の考え方が綴られています。

一方、『ルネサンス文化の研究』もまた、ラファエロの聖母画など多くの図版をまじえながら、450ページを左記のような構成で展開します。次ページに記したとおり、「序」の、本書をまとめるに至った意図を知ること、博士の姿勢にも共感することができるよう。

世界人類の歴史が中世宗教学者の説いた如く、人間救済の大なる神の御心に依て定められた順序に於て変遷する者か否かは、我等の知らない所であるが、古代より中世へ、而して近世への発展は単にそれが偶然の接続に過ぎないとは考へたく無い。遠い年代を隔てた太古乃至は現在の時代と、中世とを直接に結び着けて考へることは出来ないとしても、少くとも古代と中世とルネサンスの三者は其の直接の關係に於て、意味ある連絡をなすものと考へざるを得ない。此の連絡の系列の内に在て、中世の「暗黒」は単に暗黒それ自身に止るものではなくして、古代の光明とルネサンスの自由とを結び着ける立派な役目を持った「暗黒」なのである。かくして西洋文化発展史上に於ける中世史の暗黒は充分な意義を有せざるを得ない、此の意味に於て中世史を暗黒時代と云ふならば、我等も亦それを肯定するに躊躇しないのである。

■『ルネサンス文化の研究』の構成

- 一 ルネサンス時代概観
- 二 ルネサンスの概念
- 三 ゴシックの問題
- 四 ルネサンス人の中世観
- 五 アルベルティの『絵画論』
- 六 ルネサンスの先駆者
コラ・ディ・リエンツォ
- 七 ルネサンス初期に於ける
羅馬復活の思想
- 八 ダンテの羅馬思想
- 九 ダンテの地上楽園
- 一〇 ラファエロの聖母画
- 一一 ゴシックの克服
- 一二 ルネサンスの君主論とサルターティ
- 一三 マキヤヴェリと時代
- 一四 マキヤヴェリ『君主論』の一考察
- 一五 ブルクハルトの
『伊太利ルネサンスの文化』を読む

東北大学西洋史研究室の弟子たち

『西洋史学の先駆者たち』は、大類は小柄で「下あごがここちもち出ていてジョットーえがくところのダンテをすこし年をとらしたのにそっくりであった」とか、「ルネサンスの古典的な調和美の極致を示すラファエロと対立的運動感を代表するミケランジェロとの対比、更にルネサンスと宗教改革との全般的関係等についての名講義は恐らく先生の最も得意とされるものの一つ」であったとか、西洋史研究室に集った研究者たちの大類評について記した上で、大類博士の弟子たちについて触れています。

- 平塚博(1900-50)：『西洋史研究』へのダンテ研究論文発表、大類との共著『伊太利史』(1933年)など
- 千代田謙(1899-1980)：『西洋近世史学序説』(1935年)、『啓蒙史学の研究』(1945年)など
- 村岡哲(1911-96)：ディルタイ『フリードリッヒ大王とドイツ啓蒙主義』の翻訳(1943年)、『フリードリッヒ大王研究』(1944年)など

そして、日本諸学振興委員会や 東北史学会での弟子たちの活躍

また『西洋史学の先駆者たち』は、大類博士が1943年に日本諸学振興委員会歴史学会の常任委員となり、西洋史研究室の弟子たちに次々と研究発表の場を与えたことにも触れ、アカデミズム西洋史学の中心的存在であった大類博士の影響力の大きさによるものだったのではないかと述べています。

- 千代田謙「史学における「機」の問題」
- 村岡哲「十九世紀ドイツ史学の基調」
- 西村貞二「ローマ観念より権力思想へ」
- 山脇重雄「ドイツ海軍の伝統」
- 祇園寺信彦「古代羅馬帝国の属州統治」
- 酒井三郎「啓蒙思想の世界的性格」
- 河辺利夫「独逸世界政策の思想」
- 平塚博「中世ドイツ帝国の対外政策と皇帝思想」

1944年3月、大類博士は日本女子大学校に転出しました。その後の1948年、西洋史研究室も関わって組織された東北史学会の発足に当たって「ルネサンスと日本」と題する記念講演を行っています。

今より十五年以前、在外研究のため歐洲に留学した時、私は其の期間の大部分を伊太利に過ごした。従つて最近十年間の研究も主として伊太利ルネサンスの文化に集注されて居た、さうして其の中心題目は、ダンテとラファエロとマキヤヴェリとであった。それ等の三者いずれも、その一つのみで立派な中心題目をなすもので、此の如き三者を撰ぶに至つたことは、結局何等の纏つた成果を得ずしてゐる惧れはあるが、年月の経過に伴つて研究の興味の多少変化しつゝ、あつたことの已むを得ない結果だと云ひ得よう。

■大類伸博士の東北大学在籍時代の著作

西洋中世の文化	1925年	富山房
史蹟めぐり	1925年	興亡史論刊行会
高等西洋歴史(共著)	1925年	帝國書院
永久の都羅馬	1926年	雄山閣
美術をたづねて	1927年	博文館
西洋史講話(補訂)	1030年	東京開成館
史学概論	1932年	共立社書店
小国興亡論	1932年	平凡社
現代史学大系 第一巻	1932年	共立社書店
西洋史講座 5	1932年	雄山閣
西洋近世史(共著)	1933-35年	平凡社
女子新西洋史解説	1934年	富山房
西洋史新講	1934年	富山房
日本城郭史(共著)	1936年	雄山閣
ルネサンス文化の研究	1938年	三省堂
列強現勢史・ロシア	1938年	富山房
列強現勢史・ドイツ	1938年	富山房
列強現勢史・東中欧諸国	1939年	富山房
世界の光 日本	1940年	アルス
西洋近世史(共著)	1940年	平凡社
現代史学	1942年	弘文堂書房
ルネサンス文化の潮流	1943年	文藝春秋社
日本の城	1943年	アルス
概論歴史学	1944年	生活社
ヨーロッパ世界史(共著)	1944年	弘文堂書房

東日本大震災被災地域への視点 方言で救う、方言を救う

『方言で救うために、『支援者のための気仙沼方言入門』の発行

2011年3月11日に東北地方太平洋沿岸地域を襲った地震と津波による大災害から約半年後。2011年8月27日、小林隆教授の主宰する東北大学方言研究センターでは、『支援者のための気仙沼方言入門』という小冊子を発行しました(以下、『気仙沼方言入門』と略)。

小林教授と学生たちは、震災前、3年かかりで気仙沼地域に入り、90人くらいの人に聞き取りをするなどして方言調査を進めていました。震災直後、被災地の状況を見て急遽、その成果を活用して実用ポケット版のものとしてまとめたのです。

「このパンフレットを『ご覧くださいる方へ』と題して、発行趣旨を示す次のようなメッセージが記されています。

このパンフレットは、主に気仙沼地方の外から来られたボランティアや医療・行政関係者といった支援者の方々を対象に作成されています。現地の方との交流の中で、初めて聞く

方言に戸惑ったこともあるのではないでしょう。か。気仙沼の方言をよりよく理解するために、このパンフレットを役立てていただけたらと思います。

なお、このパンフレットは現地で行った支援者の方々のインタビュー調査の結果をもとに、気仙沼の方言について簡単に紹介しています。そして、以下のような内容で「気仙沼方言って、どんな方言?」なのが示され、

1. 発音

(1) シガスに聞こえる

(2) カ行・タ行がガ行・ダ行に聞こえる

(3) キがチに聞こえる

2. 文法

(1) 「〜サ」(共通語「〜に〜へ」)

(2) 「〜ベ・〜ッベ」(共通語「〜だろう(推量)」)

(3) 「〜ッ」(身近にある小さい物を親しみを込めて呼ぶときに使う)

3. 間違えやすい単語

(1) 「ナゲル」(共通語「捨てる」)

(2) 「ダカラ・ホンダカラ」(共通語「(本当に)そうだね」)

(3) 「コワイ」「コエー」(共通語「疲れた」)

(4) 「ワガンネ」(共通語「だめだ」)

「使ってみよう!」おススメの気仙沼市方言として、

○夕方から晩のあいさつ「オバンデス」

○別れのあいさつ「サイナー」「マタダイ」「オスズガニ」

○そうです「ホデガス」

そして「気仙沼地方の人体呼称図」も示しながら、「病気や気分を表す語」として、

「アンベア(按配)」(健康状態)

「サプキ」(咳)

「ハラビリ」(急な下痢)

「フケサメ」(病状がよく変わることを)

「コザス」(病気をこじらせる)

「スツコグル」(皮膚をすりむく)

「イズイ」(違和感がある様子)



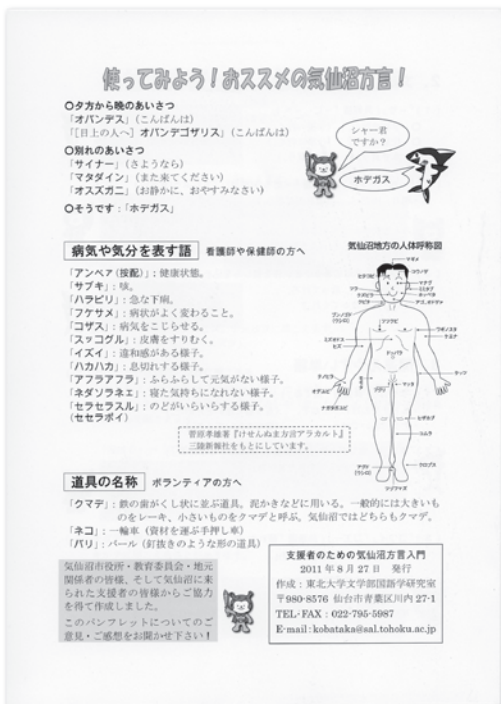
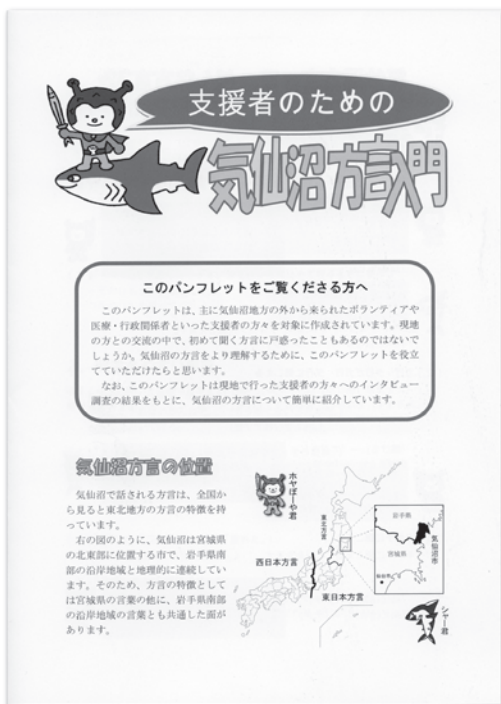
言語科学専攻国語学専攻分野
東北大学方言研究センター

小林 隆教授

Takashi Kobayashi

Profile

1957年、新潟県生まれ。東北大学文学部卒、文学研究科博士後期課程退学。国立国語研究所言語変化研究部研究員として日本語の方言文法について全国800地点を調査した『方言文法全 全国図』を作成し、方言の視点から新たな日本語史の構築を目指す『方言学的日本語史』の研究へ。1994年に東北大学文学部着任、助教授を経て現職。東北大学方言研究センターを主宰し、学生と共に東北地方の実地方言調査を行うと同時に、日本全土にわたる方言データベースを作成している。『方言の現在』(1996年)、『方言が明かす日本語の歴史』(2006年)、『シリーズ方言学1〜4』(2006〜08年)などの編・著作がある。2012年3月には、2005〜07年度に気仙沼市と、宮城・岩手両県にまたがる三陸地方南部地域で行った方言調査を、国語学研究室で『宮城県・岩手県三陸地方南部地域方言の研究』として発表している。



「ハカハカ」(息切れる様子)
「アフラアフラ」(ふらふらして元気がない様子)
「ネダソラネエ」(寝た気持ちになれない様子)
「セラセラスル」(セラボイ)「のどがいらいらする様子」
などが紹介されています。

メッセージにも記されているように、被災地域に入った支援者と地域の人々がうまくコミュニケーションでき、気持ち良く、スムーズに支援ができるようお手伝いする趣旨からまとめられたものです。ここには、東日本大震災の未曾有の被災によって、歩間違えば地域崩壊にもつながりかねないという状況の中で、被災地域と支援者を「方言で救う」という現実的な視点があります。

方言研究センターの手がけたものとしてはこの冊子に限られていますが、気仙沼地方で

話される方言は、全国から見ると東北地方の方言の特徴を持っており、宮城県の言葉の他に、岩手県南部の沿岸地域の言葉とも共通した面があることから、広い範囲での利用も可能なものとなっています。気仙沼市からは、つい最近にも追加の要望があり、研究室では、残っていたものから提供しています。

ちなみに、今、NHK総合テレビ朝の連続テレビ小説「あまちゃん」の影響から、東北地方の方言がちょっとした話題になっています。岩手県北沿岸部・久慈市の海女と三陸鉄道北リアス線が舞台になっているドラマですが、登場人物たちがビックリしたり、感動したり、何かを強調しようとするたびに発する「じゃえ」という感動詞などが、新鮮な印象を与えているのです。

この「じゃえ」は岩手県北部・青森県南部の沿岸地域で使われている方言であり、盛岡など岩手県中央から青森県南部の内陸部

では「じゃじゃ」、岩手県の南3分の1くらいから宮城県の牡鹿半島あたりまでの海岸部では「ばば」と変わります。奥羽山脈をはさんで、秋田県でも「ば」が使われます。「ば」は「もののはれ」の語源である「あば」から転訛してきたものと考えられています。

『気仙沼方言入門』は、被災地の日常活動で接する機会の多い方言を中心にまとめているため感動詞やオノマトベは省略されていますが、方言研究では、感動詞やオノマトベは、名詞や動詞・形容詞など他の要素と並んで、方言の違いを表す大きな要素となっていくものです。特に東北地方の方言は、音の文化、声の文化、というべき性格があり、他の地域よりも、自分の気持ちや、自分が見ているもの、感じているものを感動詞やオノマトベでリアルに表現することに長けており、それらの種類が豊富なものになっています。



佐賀県からの支援者にパンフレットを配布



気仙沼市ボランティアセンターでの聞き取り調査

『方言を救う、方言で救う』 3.11被災地からの提言』という成果

この小冊子の作成を含め、小林教授とセンタ一のメンバーは、それまでの取り組みについて学会で報告しました。2012年5月18日、千葉大学で行われた第94回日本方言研究会の、「東日本大震災関連ポスター発表」がそれです。

この発表は、震災の影響下、被災地の方言に対してどのような取り組みが必要かという指針を示すことに成功し、参加者の間で大きな反響を呼びました。その後、2012年10月31日、小林教授と学生たちは方言研究セン

タ一の名前で『方言を救う、方言で救う』3.11被災地からの提言』以下、『方言を救う、方言で救う』と略記)を発表しました。

教授は、「まえがき」で大震災直後の状況にふれながら、発表に至った経緯と趣旨を、次のように説明しています。

何ができるのか。私の耳には、二つの声が聞こえていた。一つは、こうした非常時だからこそ取り乱さず、研究者として自らの研究に進せよという声、もう一つは、研究者といえど

も、この非常時には作業着に着替え、シャベルを持って被災者を助けに向かおうという声である。いずれももともな意見である。しかし、私には、この二つとも極端な考えに思われた。端的に言えば、その中間はないのかという疑問である。研究者として、自分の専門を生かしながら、被災地の支援をすることはできないのだろうか。

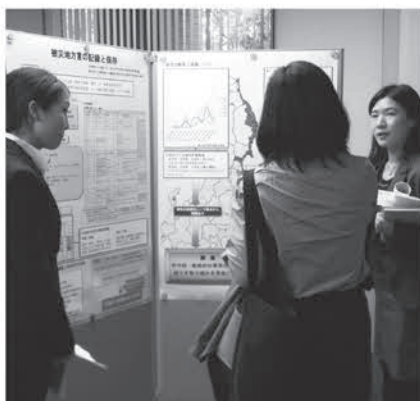
私には幸いそれができそうに思えた。方言という存在は、地域の人々の生活を根底から支えるものではないのか。だとすれば、現地の方言について考えることが、そこに暮らす人々への支援にもなるはずだ。そう思うと、被災地の方言をめぐるさまざまな課題が次から次へと頭に浮かんできた。方言学の立場から、あるいは社会言語学の視点から、取り組

■2012年5月「東日本大震災関連ポスター発表会」発表タイトル

- 1 震災の中で方言発表者ができること、なすべきこと
- 2 復興スローガンにおける方言の使用と意識
- 3 支援者のための方言パンフレット作成とその有用性
- 4 被災地方言の記録と保存
- 5 情報ネットワーク「東日本大震災と方言ネット」の構築

■方言研究センターの発表メンバー(肩書きは2012年度)

中西 太郎	文学研究科専門研究員・産学官連携研究員
田附 敏尚	文学研究科専門研究員・産学官連携研究員
川越めぐみ	文学研究科専門研究員・産学官連携研究員
椎名 渉子	文学研究科大学院生
内間 早俊	文学研究科大学院生
津田 智史	文学研究科大学院生・日本学術振興会特別研究員
魏 ふく子	文学研究科大学院生
坂喜 美佳	文学研究科大学院生・日本学術振興会特別研究員
石山 理恵	文学研究科大学院生
小原雄次郎	文学研究科大学院生
佐藤 亜実	文学研究科大学院生



発表の様子



■『方言を救う、方言で救う』の主な構成

なぜ、今、方言なのか

- 第1章 貴重な方言が消えていく
- 第2章 方言のこれからの記録に向けて
- 第3章 方言は被災者を支えることができるか
- 第4章 支援者と被災者を結ぶ方言パンフレット
- 第5章 人々をつなぐ方言情報ネットワーク
- 第6章 次世代に方言を伝えるために
- コラム 被災地の方言を知ろう
- 震災を体験して-執筆者から一言
- あとがき

■方言調査に当たっての6つの課題

課題1 被災地についての情報収集(=取り組みの前提を準備する)

- どのような被害が起こっているか。
→災害の種類と被災の実態について状況を把握する。
- 被災地とはどこなのか。
→被災地地図を作成し、地理的な広がりの中で被災地を認識する。
- 被災地の人々はどのような状況なのか。
→人口の減少や避難の状況について把握する。

課題2 被災地の方言の特徴(=方言学的に方言を把握する)

- 被災地の方言とはそもそもどのような言葉なのか。
→従来の研究を整理し、方言の特徴を理解する。
- それらについてどのような研究が行われてきたのか。
→研究文献や資料の目録を作成し、研究の現状を押さえる。
- 方言の記録として不足している部分は何か。
→上記の作業を通して、今後取り組むべき課題を見出す。

課題3 被災地の方言の現状と将来(=方言と方言学の将来について考える)

- どのような方言が消滅の危機に瀕しているのか。
→被災地地図と方言地図との対比により消えゆく方言を把握する。
- その方言の消滅は方言学にどのような影響を与えるのか。
→方言地理学や方言類型論などの観点から影響を考える。
- 今後、被災地の方言はどうなっていくのか。
→消滅・統合・拡散、あるいは共通語化などの可能性を探る。

課題4 被災地の方言の保存(=方言学的な支援のあり方を検討する)

- 被災地の方言を記録するにはどうしたらよいか
→被災・避難という状況下での方言調査の計画について考える。
- 被災地の方言の継承を考えるには何が必要か。
→若い世代への継承の必要性和その方法について検討する。
- 被災地の方言はどのように保存されるべきか。
→学術的な保存と社会的な保存の方法の両面を考える。

課題5 被災地の方言をめぐる社会的問題(=社会方言学・実践方言学に踏み出す)

- 被災地において見られる方言の社会的問題とはどのようなものか。
→救援隊・医療関係者・ボランティアと被災地方言との関係について考える。
- 住民の避難に伴い方言にどのような問題が生じているのか。
→避難先の方言との間に起こる摩擦・トラブルについて把握する。
- それらの問題に対して、どのような取り組みを行うことができるか。
→摩擦・トラブルを回避・解消するための方策について検討する。

課題6 被災地における方言の意義(=方言機能論の立場から方言をとらえる)

- 被災地の住民は地元の方言に対してどのような感情を抱いているか。
→方言をコミュニティや避難先での連帯感維持に役立てているか把握する。
- 支援者は被災地の方言をどのような目で見ていますか。
→外から入り込んだ人々の、地元方言に対する見方を明らかにする。
- 方言は被災地の住民を励ますためにどのように利用されているか。
→救援隊や行政・一般人が作成する標語などの方言利用について調べる。

むべきことは山ほどあった。本書の導入部に
あたる「なぜ、今、方言なのか」には、震災の中
で方言がもつ意味とは何なのか、そしてわれ
われはひたすら方言と向き合うべきなのか、二つ
の考えを述べておいた。

メンバーたちと相談し、本書を「方言を救
う、方言で救う」と名付けた。奇をてらった
題名のように思われるかもしれないが、至って
まじめなつもりである。この震災の影響で、
貴重な方言が消滅への歩みを加速させるで
あろう。そうした危機的状況を前にして、
方言をどう記録し次の世代に伝えたらよい
のか。追い詰められた被災者の心を、ふるさ
との方言は癒し、鼓舞することができるとの
支援者たちが被災地の方言を理解し、言葉
を通して現地の人々とながらるために、われ

われはどんなお手伝いをすべきなのか。そう
した問いかけや思いを「方言を救う、方言で
救う」というタイトルに込めた。

ここには、この大震災により地域コミュニティ
が大きく変化の中で、地域に伝わってきた
貴重な方言が消滅する危機への強い懸念が記
されています。そして、方言を記録し、次の世
代へと伝える道を探ることが「方言を救う」に、
「被災者の心を方言で癒し、鼓舞すること」と
「支援者たちが被災地の方言を理解し、地域
の人々とながらることができるようになるこ
と」が「方言で救う」に託されています。

本書の「第4章 支援者と被災者を結ぶ
方言パンフレット」が、前述した「気仙沼方言
入門」に当たります。被災地に支援に入られ

た方々と地域の人々のコミュニケーションがスム
ーズに行われるよう、独断に陥らず、分りや
すく且つ現実的に日常活動に役立つものとい
う視点、つまり「方言で救う」という立場から、
先行研究に学びながら気仙沼地域の方言に
ついて吟味されたことがうかがえます。

何をなすべきかー6つの課題

「方言を救う、方言で救う」は、方言研究セ
ンターの研究員・大学院生らと共に調査、研
究成果をまとめたものであり、6章プラスコー
ラの構成となっています。

震災発生以来、小林教授の研究グループは
被災地にも足を運び、地域の方言にどのよう
な問題が起こっているのか、どんな問題が起こ

りうるのかを洗い出す作業を行いました。

その作業の成果は、2011年10月、文学
研究科長裁量経費を得て、国語学研究室の
名前で「方言研究センター研究報告書 東日
本大震災と方言」として発表。調査、研究に
あたって抽出し、取り組んだ課題を、左記のよ
うに6つにまとめて提示しています。

その内容は、「方言を救う、方言で救う」に
もそのままとり入れられ、イントロダクション
である「なぜ、今、方言なのか」のページで記述
されています。

方言に対していかに多彩な視点を持ち、緻
密に問題設定をして取り組んでいるかが良く
分かるでしょう。



そして、すぐにでも取り組める課題、長期
的展望に立つて慎重に進めるべき課題等の区
別を見極めながら調査、研究に着手。インタ
ーネットや図書館などを通じて基礎的な情
報や文献を入手する「方、さまざまな公共機
関や新聞社にも足を運び、さらには現地を訪
れて被災地の実態を調査しながら被災者や
支援者に直接聞き取りをするなどを実践し
たのです。

「方言を救う、方言で救う」には、その概要
がまとめられています。コラムでは、「知事」と
「地図」「開ける」と「上げる」「機械」と「近
い」の発音の違い、語尾につく「サ」と「ベ」の使い
方(文法)、「唾」や「オチル・ナゲル」の各地での
バリエーションなどの具体例にも触れられてい
ます。

そして、「方言を救う」「方言で救う」活動の進化、深化へ

これらの課題に対する答えを見つけていくために、小林教授は、方言研究センターのメンバーと共に、並行して2つの大きなプロジェクトに取り組みました。『方言を救う、方言で救う』にもその一端が記されていますが、「方言を救う」と「方言で救う」活動を徹底したのです。

「方言を救う」という文化庁事業への協力

一つは、2012年3月の『東日本大震災において危機的な状況が危惧される方言の実態に関する予備調査研究』、2013年3月の『東日本大震災において危機的な状況が危惧される方言の実態に関する調査研究（宮城県）』に結実した、文化庁委託事業としての取り組みです。

『東日本大震災において危機的な状況が危

惧される方言の実態に関する予備調査研究』は、「危機的な状況が危惧される」宮城県気仙沼市方言、および、それを含む三陸南部地域の方言についての記録調査の報告となっています。

この調査では、市役所、教育委員会、ボランティアセンター、避難所、仮設住宅などの協力を得て、気仙沼市でインタビュー調査票などを使った聞き取り調査を実施。その結果については、第Ⅱ部の約200ページを調査報告のまとめに割り、「被災地方言の記録に向けてー三陸地方南部の方言調査報告ー」として、左下記のような構成でまとめています。

そして、その継続調査の結果が、1年後の『東日本大震災において危機的な状況が危惧される方言の実態に関する調査研究（宮城県）』へとつながっているのです。

「自由会話」と「場面設定会話」で、方言記録に新展開

二つ目は、2012年3月に「伝える、励ます、学ぶ 被災地方言会話集」に結実した活動です。宮城県沿岸15市町（気仙沼市・南三陸町・石巻市・女川町・東松島市・松島町・利府町・塩竈市・七ヶ浜町・多賀城市・仙台市・名取市・岩沼市・亘理町・山元町）において、選定した地域の人々の会話を録音し、文字に書き起こすと同時に、PC再生専用のCD-ROMにもまとめました。

この調査に当たっては、『気仙沼方言入門』に対する要望や、反省が下地になっていました。小林教授のグループには、「気仙沼方言入門」を読んだ支援者から、「もっといろいろの方言が知りたい」「もっと生の声が聞きたい」という声

が届いていたのです。確かに、方言というものはインターネットやニュースまで含めた総合的なものです。グループでは、文字に書き起したものでない、生の方言に触れることによつて、初めて方言に触れる人々には話ぶりなどの印象も掴めるだろうし、聞き慣れない方言に対する心構えもできるのではないかと考えました。

調査に当たっては、
①被災地の方言を記録し後世に「伝える」とを旨とする方言会話資料
②困難の中にある被災者を精神的に「励ます」ための方言会話集
③支援者が被災地の方言を「学ぶ」ことに役立てる方言会話集
を作るという明確な目標が立てられました。



文化庁委託事業報告書



一橋講堂での文化庁委託事業研究報告会

『東日本大震災において危機的な状況が危惧される方言の実態に関する予備調査研究』第Ⅱ部目次

研究の概要

音韻

アクセント—気仙沼市—

アクセント—三陸地方南部地域—

動詞の活用

格助詞相当形式「ンドゴ」

終助詞「ゴド」

ウオイス(受身・可能)

テンス・アスペクト

想起表現

伝統的方言語彙

新しい方言語彙・三陸地方特有語彙

方言特有の「イキナリ」「ナゲル」「オチル」の分布状況

グイラ・ボット系オノマトベの個人差について

驚きの感動詞「バ」

あいさつ表現

寝かせつけ場面を中心とした育児の言語行動

付録 調査票

【震災のときのこと】

話し手

A 女 1941 (昭和 16) 年 (収録時 71 歳)
B 男 1937 (昭和 12) 年 (収録時 75 歳)

001 A : アンドギモ サムクテネー、ジエータイノ ヒトダチネー、(B ウン) アノ
あの時も 寒くてね、 自衛隊の 人たちねー、(B うん) あの

ブルブルテー (B ホンダホンダホンダ) ホントーニ、ンデー アノー アノヒノ
ブルブルって (B ほんとほんとほんと) 本当に、 そして あの あの日の

フジンカイノ ヒトダジ アツカキ ミソシルダガ (A ウン) ダシテネー、
婦人会の 人たち 温かい 味噌汁とか (A うん) 出してねー、

オイシガッターッテ アドデ キーダノネー。
美味しかったって 後で 聞いたのねー。

002 B : ウン ンダネ。 オウホサモ コ コゴサ ショーボーヒヤカ* キテ
うん そうだね。 俺の方にも × ここに 消防車が 来て

(A ウンウン) トマツタガラ ミシナ ア アノ タギダスステ
(A うんうん) 止まったから みんな × あの 炊き出して

カシエダダ。 (A ソーダネー) スタラ ソノ アツカキ オツユネ
食べさせたんだ。 (A そうだね) そしたら その 温かい 御汁ね

(A ウンウン) クイダインダ。 (A ソーナダネー) ウーン オニキ* リ
(A うんうん) 食べたんだ。 (A そうなんだねー) うーん おにぎり

モラッタッテ アリカ* ダダネダ。 (A ソーソーアツカキ)
もらっても ありがたないんだ。 (A そうそうそう 温かい)

オツユダケ ホスイダ。
御汁だけ 飲いたんだ。

伝える、励ます、学ぶ、

被災地方言会話集

(宮城県沿岸15市町)

宮城県 仙台市 仙台市
仙台市 仙台市 仙台市
仙台市 仙台市 仙台市
仙台市 仙台市 仙台市
仙台市 仙台市 仙台市



2013年3月
東北大学方言研究センター



そして、「震災体験に関する自由会話」と
「言語行動に基づく場面設定会話」を作成。
その収録場所を厳密に選定し、各地点2〜4
名(50〜70代男女)の協力を得て収録を実施

したので。
場面設定会話では一覧のように、被災地
支援に入っている方々にも役立つものとの目的
から、ボランティアなども関係する日常場面

■場面設定会話の指定場面

<あいさつ>

- (1) 朝、道端で友人に会ったときにどのようなやりとりを行うか。
- (2) 昼、道端で友人に会ったときにどのようなやりとりを行うか。
- (3) 夜、道端で友人に会ったときにどのようなやりとりを行うか。

<労い>

- (4) Aが仕事に精を出すBと会い、Bの労をねぎらう際にどのようなやりとりを行うか。

<勧め>

- (5) Aが、仕事をしているBに、「少し休んでお茶とお菓子でも食べなさい」と勧める際のやりとり。

<訪問時の声掛け>

- (6) 昼間、AがB宅を訪れるときにとせのような声をかけるか。また、返事をするか。

<借用の依頼と受託>

- (7) AがBにスコップを借りるときのやりとり。(Bが貸す場合。)

<お礼>

- (8) Aが借りたスコップをBに返しに行ったときのやりとり。

<破損の謝罪・許容・不満>

- (9) AがBに借りたスコップを壊してしまい、謝るときのやりとり。

(9)-1 Bが構わないという場合。

(9)-2 Bが破損に対して不満を述べる場合。

<誘いと断り>

- (10) AがBを近くの物産市に誘う際のやりとり。(Bが断る場合。断る理由は、家族と外出の先約。)

<お見舞い>

- (11) 体調を崩しているBに、Aが体の調子を尋ねる際のやりとり。

(11)-1 Bの調子がいい場合。

(11)-2 Bの調子が悪い場合。

<申し出>

- (12) 体の調子が悪く、家の片付けもできないというBに、Aが「(私が)片付けてやろう」というときのやりとり。

<禁止>

- (13) 片付けの最中に、大事な写真をAが間違えて捨てようとしているときに、Bがそれを制止してどのようにいうか。

が設定されています。
本書では、この調査の概要について詳しく
解説をした上で、宮城県沿岸15市町の会話
の書き起こし原稿と音声を全収録している

のです。693頁に及ぶ大冊からは、被災
地の方言の様子が生き生きと伝わってき
ます。

「方言ネット」へ、談話収録の拡大へ

方言研究センターでは、2012年6月、これらの成果を発表、広報していくために、「東日本大震災と方言ネット」(<http://www.sinsaihougen.jp/>)を開設(以下、「方言ネット」と略)。小林教授は、

東日本大震災と方言ネットは、研究面では、これまでの「大震災と方言」の研究成果と、これからの動向の把握を容易にし、今後の研究の効率化・活性化に利するネットワークを目指します。

社会的には、被災者・支援者に役立つ情報の発信により、復興への手助けをしていきます。と宣言しました。

そして、「方言研究センターのこれからの取



方言ネット

り組み「方言研究センターのこれまでの取り組み」伝える、励ます、学ぶ、被災地方言会話集」などの項目を設け、その内容にアクセスできるようにしています。「伝える、励ます、学ぶ、被災地方言会話集」からは、宮城県沿岸15市町で収集した談話資料を読むことができます。

この方言ネットについては、新聞報道やテレビ・ラジオでも紹介されました。

震災後の一連の調査、研究によって、分かっていたことがあります。共通語の浸透によって方言の存在が希薄になつていく一方で、最近では、若い世代を中心に、たとえば携帯電話のコミュニケーションツールとして方言が利用されるような状態も生まれていました。そのような時代に、震災を契機に地域の人々は、方言は地域の重要な文化である、自分たちにと

って重要な存在であると気づき、後世に伝えて行きたいという意識も生まれてきているようなのです。

また、「伝える、励ます、学ぶ 被災地方言会話集」の収録過程で鮮明になったこともありました。近所の人同士の会話では、時候の挨拶や時間の挨拶など抜きで、「どこさ行くの?」「もう起きたの?」といった会話がいきな

り始まるのです。それは、地域の人々の親密さであったり、言葉の文化の違いであったりするとも考えられます。

小林教授のグループでは、そのような実態もさらに深めていくために、現在、調査地域を気仙沼と名取に限定しながら、「場面設定会話」の場面を100場面くらいまで広げて調査を進化、深化させてついであります。

ネットで残す

沿岸15市町

古里の言葉

東北大方言研究センター(仙台市青葉区)の小林隆教授のグループが、県沿岸部の15市町で使われている方言の音声ウェブサイトで順次公開している。被災地を離れた避難者を励ますとともに、震災ボランティアに東北なまりを知ってもらおうと、地元のお年寄りたちが話す方言を収録した。

* 東北大センター

標準語	方言
おはようございます	オハヨウゴザリス
こんにちは	コンニズワ
注射	ツージャ
救急車	チューチューシャ
爺さん(じいさん)、十三(じゅうさん)	ズーサン
息(いき)、駅(えき)	エギ
知事(ちじ)、地図(ちず)、辻(つじ)	ツンズ
がんばろう	ガンバッペ
どうですか	ナジェナノッシャ
そうです	ンデガス
だけど	ンダゲッド
飲みなさい	ノマイン
ダメでしょ	ダメダッチャ

宮城県沿岸部で使われる主な方言



小林隆教授

被災地離れた 避難者を励ます

活に必要な13の場面を設定し、地元の70歳前後の男女2人の会話を公開している。例えば、仕事に精を出す人をねぎらう場面では、「カムラダ、キーツケサインヨ」

では、朝昼晩のあいさつや物を借りる時など、日常生

た沿岸15市町の仮設住宅などを回った。聞き取れない言葉は再訪して聞き直した。

2013年2月2日付け読売新聞(全国版夕刊)記事

文学部へ行こう

3・11東日本大震災からの「東北復興の先導」の取り組みの中で、文学部も

東北大学が先導し、東日本大震災を乗り越え、東北の地から国際的な防災・減災に関する研究成果を発信しよう。—そのような想いから、東

北大学では、2011年4月に「東北大震災復興新生研究機構」が組織され、東日本大震災からの復興のための「8つのプロジェクト」と「復

興アクション100+」の取り組みが進められています。文学部・文学研究科の研究者も、それらの一員として、いろいろの活

動を行っています。その一例を紹介しましょう。

災害科学国際研究所の中で、「『生きる力』市民運動化プロジェクト」

2012年4月には、第1プロジェクトの「災害科学国際研究所」が附置され、国際的なスケールで開所式が行われ、6つの部門での領域横断的な研究が始まっています。

文学研究科・阿部恒之教授は、「人間・社会対応研究部門」で進められる「『生きる力』市民運動化プロジェクト」に参画。被災者の声を聴き、自治体の情報と連動させ、2013年3月、宮城県内では初の防災手帳「みんなの防災手帳」の発

行に携わりました。2013年秋には、多賀城市2万5千戸から配布が始まります。



■災害科学国際研究所 (IRIDeS) の6つの研究部門

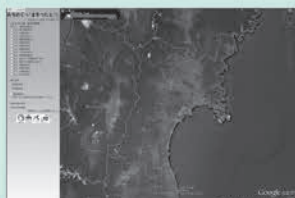
- 災害リスク研究部門
- 人間・社会対応研究部門
- 地域・都市再生研究部門
- 災害理学研究部門
- 災害医学研究部門
- 情報管理・社会連携部門



「みんなの防災手帳」はA6判・120ページで、「みんなの防災手帳」の記入欄でスタートし、自治体情報で締め括る内容となっています。

■『みちのく震録伝』の成果例

- 「みちのくいまをつたえ隊」フォトマップ
- 宮城県委託事業
「東日本大震災に伴う被災した民俗文化財調査」2011年度報告
- LVSquareみちのく
「被災地の現地写真と航空写真、全周囲360度映像」
- 東日本大震災ライブラリー
「津波再現シミュレーション、被災範囲の指定」
- 「聞き書き震災体験 東北大学90人が語る3・11」
- 震災の画像記録「のべ4000km被災沿岸の走行記録」



「みちのくいまをつたえ隊」フォトマップ



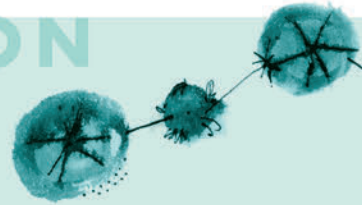
LVSquareみちのく

災害科学国際研究所の中で、「みちのく震録伝」の活動

また、災害科学国際研究所の「人間・社会対応研究部門」では、東日本大震災アーカイブプロジェクトとして、「みちのく震録伝」と名づ

けた活動も進められています。東日本大震災に関するあらゆる記憶、記録、事例、知見を収集し、国内外や未来に共有していくことを目指す取り組みです。

阿部恒之教授は、アドバイザーとしてプロジェクトメンバーに名を列ね、さまざまな成果を送り出す活動に携わっています。



方言研究センターが「方言ネット」 「方言会話集」で被災地をサポート

国語学研究室の小林隆教授と大学院生で組織する東北大学方言研究センターは、東日本大震災後の2012年6月に「方言ネット」を開設。長年にわたる方言研究の蓄積を基礎にして、被災地の方言に関する情報を提供しています。中でも「伝える、励ます、学ぶ、被災地方言会話集」は、被災地の方言を後世に伝えるとともに、被災者を励ましたり、支援者が東北の方言を学んだりするために作成されました。

この方言会話集は、15市町の70歳前後の男女各1組に方言での会



「伝える、励ます、学ぶ、被災地方言会話集」は、B5判・693ページの冊子で、宮城県沿岸15市町の方言会話を収録しています。



話をしてもらい、録音を公開するとともに、それを文字起こししてまとめたものです。市町村で配布してもらうのと同時に、ホームページ上でも公開しています。

日本語教育学研究室で、 「縁側で『こんにちは』プロジェクト

東日本大震災からの避難・復旧・復興の中で、震災・津波で家を失った人々は仮設住宅生活を強いられることになりました。否応無しに新しい人間関係を構築していかなければならなくなりました。

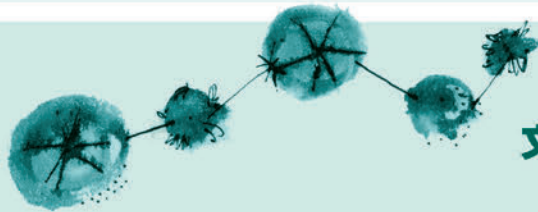
文学研究科言語科学専攻の名嶋義直准教授(日本語教育学専攻分野)は、このような人々の窮状に着目し、自然発生的なコミュニケーションを生み出す環境整備を継続できないかと発想。学生・教職員のボランティアを募り、仮設住宅を毎月1、2回定期的に訪問し、屋外に全天候型大型テントを設置し、折り畳みベンチを置いて、自由に



「縁側で『こんにちは』」プロジェクトは、取り組みを長続きさせるため、堅苦しくならないお茶会を基本に、歌声喫茶、アロマハンドマッサージ、リース作り、フラワーアレンジ、コンサート、舞踊などを組合せ、ゆるやかにコミュニケーションが生まれていくことを主眼としています。

使い、コミュニケーションしてもらうフリースペース(「移動式縁側」)づくりに着手しました。その後、移動式縁側だけでなく、集まって、いっしょに何かをする場所を複数設ける取り組みに拡大し、この取り組み全体に「縁側で『こんにちは』プロジェクト」と名づけ、2011年12月中旬から、名取市の仮設住宅においての定期的な訪問を続けています。

名嶋准教授は、独自のブログ(<http://blog.goo.ne.jp/engawa2011>)でボランティアを募集する一方で、活動の告知と報告を行っています。



文学部へ行こう

インフォメーション1

青春のエッセー 阿部次郎記念賞 第7回作品募集中

阿部次郎記念賞を設け、全国の高校生(高専1〜3年生も含む)の作品を募集する「青春のエッセー」。河北新報社、株式会社七十七銀行、日本GE株式会社協賛をいただき、2013年度で第7回を迎えます。

課題作品の課題は「歴史」、ゲスト選考委員は直木賞作家・佐藤賢二氏(東北大学文学研究科修了・秋田県在住)にお願いしています。9月30日

原稿締め切り、11月3日発表の予定です。

全国の高校生の皆さんの応募をお待ちしています。問合せ先・阿部次郎記念賞運営委員会事務局(<http://www.sai.tohoku.ac.jp/abe/p845.html>)

なお、2012年度は、203点の作品の応募をいただき、選考の結果、左記のように受賞者・受賞作品、受賞校

【2012年度の選考結果】

課題作品の部 課題「再生」

●最優秀賞

「再生とは何かー音楽から学んだこと」

伊藤江里華さん(三重県 高田高等学校1年)

●優秀賞

「再生を信じて」

青葉実優さん(岡山県立倉敷天城高等学校1年)

「ペダルを漕いで」

石津真保さん(茨城県 清真学園高等学校3年)

自由作品の部

●最優秀賞

「メンデレーエフの加護よあれ」

日下美緒梨さん(宮城県仙台台山高等学校2年)

●優秀賞

「おとうとといのち」

小山未来さん(長野県長野高等学校2年)

「ある独裁者のいた記憶」

齋藤万里名さん(栃木県立宇都宮中央女子高等学校3年)

●学校賞

青森県立弘前高等学校

茨城県 清真学園高等学校



日下美緒梨さん



第6回 阿部次郎記念賞
入賞作品集
(2013年3月1日発行)

インフォメーション3

7月30日・31日、オープンキャンパス開催

7月30日・31日、恒例の東北大学全学オープンキャンパスが開かれます。毎年、全国の高校(一部中学生も参加)から数万人が参加する、国公立大学最大のオープンキャンパスとなっています。

文学部では、今回も両日とも午前、午後に分けて、東北大学百周年記念会館川内萩ホールで文学部案内、

公開講義を行います。自由に研究室訪問もできます。日程および公開講義題目は、表のような予定となっています。



青春のエッセー 作品集の中国語版発刊

2011年9月には、第1〜3回作品中31編を収めた中国語版の作品集が、『思考的青春』のタイトルで上海の出版社(山東文藝出版社)から刊行されました。上海外国語大学の日本語・日本文学の研究者が校閲を行っています。日中両国の相互理解につながることも期待されます。



が決まりました。第1〜6回作品集はまだ若干の在庫がありますので、事務局宛てにお申し込みください。



リベラルアーツサロン(2013年度前期)

会場：せんだいメディアテーク
問合せ先：☎022-217-4977(東北大学広報課)

- 6月14日 ●アイヌ考古学
国際文化研究科・深澤百合子教授
7月12日 ●シェイクスピアのせりふ術
文学研究科英文学・岩田美喜准教授

有備館講座(第12期)

会場：大崎市岩出山公民館・松山公民館
問合せ先：☎0229-72-0357
(大崎市岩出山公民館スコレハウス)

- 5月11日 ●知的柔軟性の国際比較
行動科学・木村邦博教授
6月15日 ●東からの衝撃
ーゴッホが挑んだレンブラントの謎ー
西洋美術史・尾崎彰宏教授
7月20日 ●田尻のなかの江戸
ー全国に知られた狂歌作者たちー
日本思想史・高橋章則准教授
8月10日 ●文化の政治
ー9世紀日本の仏教ー
日本史・堀裕准教授
9月21日 ●イタリアの芸術と言語
美学・西洋美術史・フォンガロ・エンリコ准教授



2012年度講座にて



2013年度6月講座にて

**公開講座に
お出かけください**

文学研究科・文学部では、今年も、リベラルアーツサロンとともに、有備館講座、齋理蔵の講座を開催します。有備館講座、齋理蔵の講座はともに、「地域再考」をテーマに、地域再興を期して、私たちの命と心を支える「地域」のあり方を改めて問い直します。

インフォメーション2

齋理蔵の講座(第6期)

会場：丸森町・齋理屋敷
問合せ先：☎0224-72-3036(丸森町教育委員会・生涯学習班)

- 6月1日 ●幽霊の誕生
日本思想史・佐藤弘夫教授
7月6日 ●中国の住まいと神々
文化人類学・川口幸大准教授
8月3日 ●中国官僚制と科挙
東洋史・大野晃嗣准教授
9月7日 ●見えるものと見えないもの
ー原始貨幣とイエス・キリストの社会学ー
社会学・正村俊之教授
10月5日 ●宗教からみた私たちの社会と文化
宗教学・木村敏明准教授

11月3日には、東北大学植物園をメイン会場として、文学研究科と植物園との共催で紅葉の賀が開かれます。2005年に始まったこの催しも恒例の行事となり、今年で9回目を迎えます。

2012年度は、俳句会、野点、尺八演奏、植物園内ガイド付き散策も例年どおり行われ、公開講座として、植物園牧雅之教授の「モミジの生態学―カエデ属における多様性の実態と起源」、日本思想史・高橋章則准教授の「狂歌でたどる『伊達』な風物―奥



州仙台名所尽集」と『狂歌扶桑名所名物集』、青春のエッセー選考結果報告会なども開かれました。

11月3日、東北大学植物園で「紅葉の賀」

インフォメーション4

<文学部のオープンキャンパス日程> 7月30日(月)

午前	10:30 ~ 10:35	あいさつ	大淵憲一学部長
	10:35 ~ 11:00	文学部案内	三浦秀一教授
	11:00 ~ 12:00	公開講義	村山達也准教授(倫理学) 「何かが「ある」と言えるためには何が必要か？」
午後	13:30 ~ 14:00	文学部案内	三浦秀一教授
	14:00 ~ 15:00	公開講義	大河内昌教授(英文学) 「英文学入門」
	15:30 ~ 16:30	大学院説明会	
	16:30 ~	希望研究室訪問(事前予約制)	

7月31日(火)

午前	10:30 ~ 10:35	あいさつ	大淵憲一学部長
	10:35 ~ 11:00	文学部案内	吉水清孝教授
	11:00 ~ 12:00	公開講義	泉武夫教授(東洋・日本美術史) 「平安絵巻の話法―アニメの先駆」
午後	13:30 ~ 14:00	文学部案内	吉水清孝教授
	14:00 ~ 15:00	公開講義	行場次朗教授(心理学) 「おもしろい認知心理学入門」
	15:30 ~ 16:30	大学院説明会	
	16:30 ~	希望研究室訪問(事前予約制)	





東北大学片平キャンパスにある赤レンガ書庫は現在、常時公開はしていませんが、企画展によって貴重な学術コレクションを展示公開する計画は東北大学史料館によって実施されています。



東北大学の考古学資料については、来る7月13日～9月8日、東北歴史博物館において「考古学からの挑戦—東北大学考古学研究の軌跡—」展が開かれます。東北大学の考古学研究には、大正時代以来の約100年の歴史があります。その歩みは発掘調査によって確実な物証を掘り出し、それを基に日本先史文化、東北古代文化の解明に挑み続けたものでした。その重要資料を一挙に展示紹介するもので、全面的な公開は初めてとなります。

縄文時代研究の基礎資料となる 東北大学考古学資料



注口土器(青森県十腰内)

※以下、写真はすべて東北大学附属図書館所蔵



注口土器(青森県石郷)



鉢(秋田県藤株)



壺形土器(青森県亀ヶ岡)



朱塗台付き鉢形土器(宮城県沼津)

世界の歴史では中世紀時代ないし新石器時代といわれる1万5千年～1万年前に、日本列島では狩猟採集により定住化が始まり、縄文土器がつくられ始めました。水田耕作を特徴とする弥生文化が登場する3千年前まで続いたこの時代が、日本独特の縄文文化の時代です。赤レンガ書庫の亀ヶ岡文化の遺品には、土器、呪術具などのほか、宮城県沼津貝塚で発見された漁労具、装身具なども含まれています。

1923年に東北帝国大学法文学部が開設されると、翌24年には、喜田貞吉(1871-1939)。東北大学在籍(1924-39)が講師として着任し日本古代史／考古学を講じ、25年には「奥羽史料調査部」を設置して主として東北地方における考古資料の収集と研究を始めた。

東北地方では1920年前後から、東北帝国大学医学部解剖学教室の長谷部言人教授・山内清男副手が青森・岩手・山形・宮城などで発掘された縄文時代の遺跡の中の人骨の分析を行うなど、東北大学の研究者によって縄文文化研究が進んでいました。喜田教授と奥羽資料調査部は、その研究をさらに進展させたのです。

その後、考古学研究室には伊東信雄教授(東北大学在籍1949-71)、芹澤長介教授(東北大学在籍1963-83)などが加わり、考古学資料の収集も研究成果

も飛躍的に拡大。それらの資料は、旧制第二高等学校の赤煉瓦造りの建物に収蔵され、「赤レンガ書庫」(正式名称「文学研究科考古学陳列館」と呼ばれてきました。

その収蔵品の中には、たとえば青森県亀ヶ岡、十腰内、秋田県藤株遺跡などで江戸時代から昭和初期にかけて発掘、収集された「亀ヶ岡式土器」の資料が含まれています。

日本列島に縄文文化が成立したのは約1万年～1万5千年前といわれますが、その終わり頃(3300～2800年前)に東北地方一帯で開花したのが亀ヶ岡文化であり、精巧で華麗な装飾を持つ亀ヶ岡式土器がつくられました。青森県つがる市の亀ヶ岡遺跡(1944年に国指定史跡)には、遮光器土偶が出土したことで有名です。赤レンガ書庫の収蔵品には、注口土器、壺、深鉢、浅鉢、皿など、縄文の華々と呼ばれる多様な器も見られます。



【発行】東北大学大学院文学研究科 〒980-8576 仙台市青葉区川内27-1

tel.022-795-6003(庶務係) fax.022-795-6086 [URL] <http://www.sai.tohoku.ac.jp/index-j.html>

【編集】文学研究科研究広報室 【発行年月】2013年7月